

令和2年第15回

荒川区教育委員会定例会

令和2年8月7日

於) 304・305会議室

荒川区教育委員会

令和2年荒川区教育委員会第15回定例会

- | | | |
|--------|---|--|
| 1 日 時 | 令和2年8月7日 | 午後1時30分 |
| 2 場 所 | 304・305会議室 | |
| 3 出席委員 | 教 育 長
教育長職務代理者
委 員
委 員
委 員 | 高 梨 博 和
小 林 敦 子
繁 田 雅 弘
長 島 啓 記
坂 田 一 郎 |
| 4 出席職員 | 教 育 部 長
教育総務課長
指 導 室 長
教育センター所長
書 記
書 記
書 記
書 記
書 記 | 三 枝 直 樹
山 形 実
津 野 澄 人
大久保 和彦
杉 山 茂
寺 本 英 雄
小 川 綾 一
丸 田 恭 雅
宮 島 弘 江 |

(1) 審議事項

議案第 2 5 号 令和 3 年度から使用する中学校教科用図書の採択について

議案第 2 6 号 令和 3 年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

(2) その他

教育長 事務局、傍聴人の方々の入室を許可してください。

〔傍聴者入室〕

教育長 お座りになられたようですので、初めに御案内をさせていただきます。

審議に先立ちまして、傍聴の皆様へ申し上げます。皆様にお配りいたしました傍聴券に記載の注意事項をよくお読みいただき、傍聴中において発言などにより議事を妨げることはないよう、お願い申し上げます。

それでは、ただいまから荒川区教育委員会令和2年第15回定例会を開催いたします。

初めに、出席者数の御報告を申し上げます。本日5名、全員出席でございます。

議事録の署名委員につきましては、繁田委員、長島委員、御兩名をお願いいたします。

5月22日開催の第10回定例会の議事録につきましては、前回の定例会にて配付し、この間、委員の皆様へ御確認いただいたところでございます。本日、特に御意見等がなければ承認とさせていただきますと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

教育長 それでは承認といたします。

本日の議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。本日は議案が2件となっております。

初めに、議案第25号「令和3年度から使用する中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

荒川区教育委員会におきましては、4月24日に開催した定例会において、今回の中学校教科用図書の採択方針及び手続を確認し、また7月22日に開催した定例会において、選定調査会からの報告を受けたところです。この間、委員の皆様お一人お一人による調査研究のほか、勉強会を開催し、各発行者の教科用図書の編修趣意書や東京都教育委員会による教科書調査研究資料などの資料や、教科書展示会におけるアンケートなども参考に、教科書採択に当たっての研究を頂いたところでございます。

本日は、それらの調査研究の結果を持ち寄っていただき、採択を行いますので、お願いいたします。

本日の審議の進め方でございますが、御手元の議案に記載のとおり、各教科・種目ごとに一つ一つ審議、採択を進めてまいります。

それでは議案の審議に入ります。初めに、事務局から議案の説明がございます。

では、指導室長、お願いいたします。

指導室長 それでは、議案第25号「令和3年度から使用する中学校教科用図書の採択について」、御説明を申し上げます。

文部科学省より示されております「中学校用教科書目録 令和3年度使用」に掲載されております69種類の教科書の中から、10教科16種目について、それぞれ1種類の教科用図書を荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づき、御採択いただきます。

調査の経過につきまして、御報告申し上げます。荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、5月27日に教科用図書選定調査会を設置いたしました。この選定調査会は、学識経験者、地域関係者、保護者、学校関係者の計8名で組織され、全3回の協議を通してすべての教科用図書に関しまして調査研究を行いました。

この間、選定調査会から各教科に関し専門性の高い本区の中学校長及び教員により組織される教科専門部会に調査を依頼いたしまして、報告を受け、その内容を参考にしながら、具体的な調査研究をまいりました。

机上に配付させていただきました「令和3年度使用中学校教科用図書選定調査会調査研究報告書」に、調査研究をまとめさせていただいてございます。

また、広く区民の皆様や各学校の教員等に直接教科書を見ていただき、たくさんの意見を頂くために、6月12日から7月5日まで、荒川区立教育センター内で令和3年度使用中学校教科用図書見本展示会を行いました。それに加え6月15日から19日に、荒川区立第一中学校内と荒川区立第七中学校内、6月23日から26日と6月29日に、荒川区立第九中学校内と荒川区立諏訪台中学校内、以上四つの中学校でも令和3年度使用中学校教科用図書見本展示会を行いました。

その間、延べ180名の入場者があり、174名の方からアンケートの回答を頂きました。このアンケートにつきましては、事前にお渡しをさせていただいております。

令和3年度使用中学校教科用図書選定調査会調査研究報告書及び教科用図書見本展示会のアンケートを参考にさせていただきながら御審議を頂き、採択につきましてよろしく御願い申し上げます。

教育長 ただいまの説明にありましたように、採択の対象は10教科16種目となっております。議案書に記載の順に審議、採決を行い、決定してまいりたいと存じます。

審議、採決の方法は、種目ごとに事務局より改めて調査内容の報告を受けた後に、各委員会の皆様から報告内容に対する質疑や各者の教科用図書に対する意見、候補とすべき図書の推薦などについて御発言を頂き、協議をさせていただく中で、最終的に大方の方向がまとまった、議論がし尽くされたと判断された段階で採決に移らせていただきます。

最終的に委員の皆様の見解が分かれ、複数の候補が残った場合については、その複数の候補について議案に記載されている発行者の順に、その発行者の図書がふさわしいと判断される委員の皆様が挙手していただくという形で採決させていただきます。その場合、本日の出

席委員が5名ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、過半数の3票を獲得した発行者の図書が採択となります。いずれの教科用図書も3票に達しない場合につきましては、票の得られた発行者に絞って改めて確認いたしたいと存じます。それでもなかなか決定に至らない場合については、他の教科・種目の採択を進めさせていただき、議案の最後の種目が終了した段階で、再度審議、採択を行います。

なお、退席などにより委員が4名となり、可否同数となった場合につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、教育長が決定いたします。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 皆様の賛同が得られましたので、そのように取り扱うことといたします。

それでは、教科「国語」、種目「国語」から審議、採決をいたします。

指導室長から「国語」について、説明をお願いします。

指導室長 それでは、教科「国語」、種目「国語」から御報告申し上げます。

「新しい国語」、東京書籍でございます。内容につきましては、発展・補充教材が充実しており、文法の指導に生かせることができるものとなっております。表現につきましては、図、写真にはキャプションが付いており、本文の内容を補足してございます。学習活動につきましては、言語活動の導入に漫画が使われており、生徒たちが想像しやすくなっております。1年教科書に区内在勤の義肢装具士、臼井二美男氏が掲載されてございます。

「現代の国語」、三省堂でございます。内容につきましては、「読書の広場」が充実しております。表現につきましては、挿絵、写真は適量で読みやすいように作られております。学習活動につきましては、「読み方を学ぼう」を使いながら、問題解決的な学習活動を進められるものとなっております。

「伝え合う言葉 中学国語」、教育出版でございます。内容につきましては、横書きページと縦書きページが混在しております。表現につきましては、AI、環境等の現代的課題が掲載されております。学習活動につきましては、題材自体の掲載は少ないのですが、「学びナビ」が設けてあり、学習活動や言語活動を進めることができるものとなっております。3年教科書に「ゆいの森あらかわ」で開催されておりますビブリオバトル大会の様子が掲載されてございます。

「国語」、光村図書出版でございます。内容につきましては、「思考のレッスン」等の生徒の学びを支援する教材が掲載されております。挿絵は適量で、色彩が少なくなっております。学習活動につきましては、精選することも可能ですが、問題解決的な学習内容が充実しております。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

教育長 ただいま教科「国語」、種目「国語」についての説明がございました。それでは御質疑、御審議をお願いいたします。

どうぞ、小林委員。

小林委員 それでは、これから各教科の教科書についてコメントを述べさせていただきますが、まず最初に、各者の教科書の検討に当たって資料を参考にいたしましたので、その資料に關しまして最初に少しだけ説明させていただきます。

まず1番目ですが、東京都教育委員会から出されました教科書調査研究資料について、参考にいたしました。2番目として、荒川区の教科書選定調査会調査研究報告を参考にいたしました。3番目として、荒川区で実施されました中学校教科用図書見本展示会のアンケートを参考にいたしました。併せて荒川区の教育実態、これは学校への訪問、教員・生徒の授業の様子を見ての教育実態を参考にしながら、教科書を検討したことを先に述べておきたいと思えます。

まず、国語ですが、国語に関しましては、三省堂、光村図書、教育出版が優れているかと思えました。

三省堂についてですが、特色として文章を分析的に読むことを非常に重視しておりまして、読み方を学ぶという点で優れていると思えました。例えば1年生の教科書に収録されている芥川龍之介の「トロッコ」という作品があるのですが、これで見てもと情景描写と主人公の心の動きにつきまして、図式的に説明されております。最初、主人公はトロッコを押して楽しむのですが、その心情が太陽の日を受けて黄色く輝くミカン畑の情景描写に反映されていると整理しております。しかしながらトロッコを押しているうちに遠いところに来てしましまして、不安が生まれてきます。その心情が薄ら寒い海が開けたという情景描写に表れていると分析しております。ミカン畑と海という二つの情景描写から心情を深く捉えようとし、また図式的に分析しておりまして、非常に分かりやすいということがございます。

三省堂の2点目、非常に優れている点があるのですが、現代的な内容、文章を取り入れている点です。例えば3年生の教科書で俳句のところを見ますと、夏井いつき先生の「俳句の世界」がありまして、ここを読みますと季語の魅力について躍動感あふれる文章で書いております。夏井先生はYouTubeもされているようで、夏井先生の文章を見て俳句にさらに興味を持つ、そういった生徒さんが生まれるかもしれないなという気がいたしました。

3点目、三省堂ですが、分かりやすさというのがあるかなと思っております。後ろについている中心発問に関しましても、非常に分かりやすいと。古典の現代文に関しましても平易であるということから、理解しやすいのではないかと思えました。

2番目、光村図書ですが、まず光村は、文学、記録文ともに取り上げている文章の質が極めて高いということが指摘されるかと思えます。

そして2点目ですが、QRコード、2次元コードがかなり入っておりまして、これはあくまでも教材ではあるのですが、デジタルコンテンツが非常に豊富です。例えば1年生ですと、詩人の工藤直子さんのインタビューの動画があります。また3年生ですと、「奥の細道」の朗読がありまして、聞いておられますと日本語はこんなに美しいのかと驚かされる、そういった教材が入っているということです。

そして3点目としては、若い世代の興味・関心を引きつける内容が盛り込まれているという点がございませう。

そして教育出版ですが、教育出版に関しましても、1点目としては分かりやすいということです。作品の前に「学びナビ」がございまして、これがこの単元で学ぶべきポイントが明確になっている、そういった良さがあると思うのですが、ただ、あまりに作品を読む前にこういった導入的な詳しい解説があったほうがいいのかどうかというのは、少し議論の必要があるかなと思っております。

教育出版の2点目としましては、デジタルコンテンツが非常に充実しておりまして、図書館の利用という項目で、荒川区の「ゆいの森」を使って撮影されております。自分たちの図書館が教科書に取り上げられているということです。中学生が荒川区や、あるいは荒川区にある「ゆいの森」を誇らしく思うのではないかと期待される、そういったメリットがあるかと思えます。

以上3者を挙げたのですが、結論的にいえば三省堂がいいかなと思っております。平易で親しみやすさ、あるいは文章を分析的に読み解く工夫がなされているという点からです。

以上です。ありがとうございます。

教育長 ありがとうございます。ほかに御審議、いかがでしょうか。

坂田委員、どうぞ。

坂田委員 坂田でございます。参考にした材料につきましては、今、小林委員から御説明があったことと全く同じでございます。私はその中でも特に区民の方や教員の方のアンケート調査を重点的に読み、参考とさせていただきました。

まず教科を通した全体的な所感ですけれども、今回、2015年に国連が提唱したSDGsですが、これが非常に多くの教科で取り上げられていて、社会は当然なのですが、これから審議する国語においても取り上げられているなど、非常に多くの教科で取り上げられていることが印象的です。その結果、そういったコンセプトを通じて、それぞれの教科間のつながりが生まれていると感じた次第です。

国語ですけれども、私は四つの発行者を全体として見ますと、二つに分けられるかなと思います。一つは三省堂と、それから教育出版ですが、先ほど小林委員の発言にもありましたように、やや分析的、分析的な要素が濃いもの。それと対比されるものとして光村図書と東京書籍ですけれども、こちらは国語の教科書の伝統的な構成によっていて、文章の題材を中心に読ませながら勉強していくと、そういうスタイルになっているものかと思います。

前者の方では、私はやはり三省堂がいいと考えました。「学習の道しるべ」というのが、それぞれ主要なところに差し込まれていて、この道しるべの中で、教室の中で議論すべき論点が集まっていますので、比較的若い先生方にも指導がしやすいのではないかと思います。

一方、文法のところが、例示や文章問題がもう少し多くてもいいのかなと感じました。特に1年生用です。内容的には現代社会とのリンクが結構ある内容になっていると思いました。

教育出版は、非常に分析的で丁寧なのですが、やや難易度が高いかなと感じます。それから学習活動の流れというのが各パートにあるのですけれども、ややこれが細かいかなという印象です。

次のグループの二つの教科書ですけれども、光村は本当に国語らしい構成で、題材が非常にすばらしいものが多いと思います。それから学習の項目立てとして、例えば言葉のまとまりを考えようとか、指示する語句と接続する語句、文節同士の関係といった、いわゆる文法的な内容についての読書項目があちこちに差し込まれていて、これも文章を読みながら並行してこういった文法的な内容を学んでいくという構成は、子どもたちを飽きさせないでいいのではないかなと思いました。

東京書籍の方も文章に関しては非常に内容のあるものが多くて、じっくり国語を勉強させるといった内容になっていると思います。ただ、文法解説が充実しているのですけれども、これが後ろの方にまとめてパートとしてありまして、文法だけ学ぶ分には利便性が高いのですけれども、もう少し通常の文章を読ませるような指導の中に組み合わせていったほうが、文法はちょっと子どもたちが取っつきにくいところですので、その方が子どもたちが入りやすいかなと思いました。

以上から、前者のやや分析的なものの中からは三省堂、それから後者の国語らしい構成としては光村、この二つを挙げさせていただきたいと思います。

教育長 ほかにいかがでしょうか。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 長島です。よろしくお願いします。

既に検定が終わっていますので、改めて確認する必要もないかとは思ったのですが、「学

習指導要領」で各教科、一体どういったことが目標として掲げられているかといったことも確認しつつ、それから小林委員、坂田委員が挙げられた幾つかの資料ですね、それを参考に各教科の教科書を見させていただきました。

国語科の目標は、例えば国語の特質を理解して適切に使うことができるようにするであるとか、思考力や判断力を養うとか、言語感覚を豊かにするといったことが挙げられています。4者の教科書について、どんな作品が取り上げられているかということと、それから説明的な文章ですね、それがどのくらい取り上げられているかということと、あと学習の進め方といますか、生徒への学びの支援という観点を中心に見させていただきました。

最も印象に残った作品は、東京書籍の3年生用に「いつものように新聞が届いた メディアと東日本大震災」という作品が載っているのですが、このような作品に出会うべきなのではと思ったりしました。

それから説明的な文章の読み方ということは、思考力、判断力の育成ということでは大事だと考えております。東京都教育委員会の教科書調査研究資料では、説明的な文章、文学的な文章、詩歌と三つに分けたときに、説明的な文章が多いのは教育出版となっております。

それから学習の進め方、学びの支援という観点では、4者が2年生で取り上げられている「走れメロス」について、ちょっと比べてみました。東京書籍は、手引として人物像を捉え、人物の言動について考えようなど、2ページ分ですね。それから人物を描写しようということで、書くことについて1ページ分示されています。それから三省堂は、お二人の委員からもありましたように、「学びの道しるべ」というのがありまして、それが3ページ分あります。教育出版は、作品の前に「学びナビ」というのが2ページありまして、作品の後に「道しるべ」というのが1ページあります。この「学びナビ」には、変化する語りということで、語り手の位置ということが説明されています。作品の前にこういったものを置くことがどうなのかということがあるかと思いますが、文学作品でも何か意識的に読むということをもっとやっていいのではないかと私は思っておりまして、この「学びナビ」というのは有用ではないかと思いました。

それから光村図書は、作品の後に見通しを持つ、捉える、より深める、考えを持つというのが、1ページ半ぐらい。これはですから「走れメロス」という一つの教材ですけど、それについて各者がどういうふうに学習を進めようとしているか、進めさせようとしているかというのを示しているものかなと思いました。

これらのことをいろいろ考え合わせ、やはり「学びナビ」が有用ではないか。次に意識的な読み方ということでは、三省堂の「学びの道しるべ」も興味深いものでしたので、私としては国語については教育出版か、あるいは三省堂かと考えております。

以上になります。

教育長 それでは繁田委員、いかがでしょう。

繁田委員 参考にさせていただいた資料はほかの委員の先生方と同じでございます。国語全体、4者を通して感じたことは、アンケートにもあったかもしれませんが、もう少し国際的な課題に関して取り上げてよかったのかなというのが一つと、私の個人的な嗜好かもしれませんが、古典がもうちょっとあってもいいかなと思いました。

個別に気が付いた点としましては、東京書籍はページの中のいろいろな情報を分かりやすく、見やすくしているのですけれども、ページによっては文章と挿絵以外の細かな情報がかなり目に入ってくるので、文章を集中して読んでほしいということから考えると、少し意見が分かれるかもしれないと思いました。

それから光村図書に関しましては、1年生の初めの方に「思考の地図」というのがあって、内容としてはセンスがすごくいいと思ったのですけれども、先生によっては使い切れない可能性があって、差が出るかなというのがちょっと気になりました。ただ、考えること、思考することとはどういうことか、どういう方法があるのかということ伝えるツールとしてはとてもいいなとは思いました。

三省堂と教育出版に関しましては、私は教科書を開いて見せていただくときに、頑張ってもやる気がある生徒さんが見る場合と、あまり勉強が好きではないけれども勉強してほしいという生徒さんが見る場合というのを考えながら見たのですが、この二つに関してはそのバランスがいいかなと思いましたので、私の中では三省堂と教育出版が心に残りました。

以上でございます。

教育長 それでは、私も意見を述べさせていただきたいと思います。

初めに、国語の教科に触れる前に、全体を通しての感想について2点を申し上げさせていただきます。まず1点目、各教科、各者とも主体的・対話的で深い学びにつながるための設問ですとか資料が数多く掲載されている教科書の構成になってございます。これまでのように一方的に知識を学ぶという形式ではなくて、その事象なり結論に至った根拠だとか理由、あるいはまた現状の課題などについて生徒たち一人一人に理解させ、その上で意見交換や討論などを通して様々な考え方を学んでいく、そういった方向性が明確になっていると感じました。ぜひ、これからの教育の在り方を各教員がこの教科書の活用を通して、理解して子どもたちの学びに活用してもらいたいなと思った次第です。

それで2点目ですね。これは昨年の小学校の教科書採択のときにも感じましたが、デジタルコンテンツ、教科書に2次元コードが掲載されている教科書が数多く見受けられております。折しもコロナの感染拡大に伴う学校休業が実施されて、自宅学習の重要性が高まる中で、デ

デジタルコンテンツの役割も極めて大きくなっております。しかしながら一方で、現段階においてデジタルコンテンツはあくまでも教材としての位置付けになっておりまして、この教科書採択に当たって、都教委や文科省に確認したところでも、コンテンツの内容をどのように評価すべきなのか、明確な評価基準などは示されていないといった回答でした。既に都教委でも教科書採択が終わっていますけれども、教科書採択の委員会の際にも委員の方々からコンテンツの取扱いについて意見が出たということも聞いております。ぜひ今後一定のガイドラインですとか、判断基準が示されることを期待したい、要望したいと考えております。

前置きが長くなりました。国語です。国語については、先ほど長島委員からも御指摘がありましたけれども、では何を指すのかというところで、子どもたちには語彙や文法など文章を正確に理解し、自分の考えを適切に表現する基本的な能力を育成すること。また、話合いや発表などを通して、思考力や判断力を育成すること。さらに応用という形になりますけれども、読書指導を充実することも大きな国語科の課題になっております。こうした中で、4者の教科書について比較検討をいたしました。

三省堂については、やはり辞書の会社ということもあるのでしょうか、各単元の下段に掲載されております単語の説明ですとか、漢字の読み方などの解説が丁寧だなと思いましたが、語彙を豊かにですとか、漢字の仕組み、漢字を身につけようなど、分かりやすい説明が記載されております。「学びの道しるべ」では、単元ごとの目標や課題、設問などがまとめられておりまして、読み方を学ぼうで発展的な学習活動にも活用できるかなと思った次第です。

次に、光村図書については、やはり題材が大変すばらしいものが多いなと思った次第です。加えて「思考のレッスン」というところがあるのですが、独立した読み物や学習として十分活用できる内容となっております。また、「読書生活を豊かに」という節になりますか、単元になりますか、読書指導を充実した項目に掲げておりまして、読書教育に力を入れている荒川区としては、大変ありがたいなと思った次第です。

また、先ほど小林委員からもお話がありました教育出版ですけれども、「広がる本の世界」ですとか「道しるべ」で、読書の魅力ですとか活用方法、良書の紹介などを随所に散りばめられておりまして、各学年で「ゆいの森あらかわ」について写真が掲載され、図書の展示ですとか活用方法、ビブリオバトルなどの様子も紹介されております。加えて都電ですとか、荒川遊園ではないかなと思われる写真も掲載されておりまして、子どもたちに親しみが持てる内容となっております。私は三省堂、光村図書、教育出版のいずれかがいいのではないかなと思った次第です。

それでは、委員の皆様から御意見が出たところではございますけれども、先ほど来御意見をお聞きしている中で、なかなか1者に現時点で絞るということではできませんので、議案、

掲載の順に発行者名を申し上げますので、教科書としての採択がふさわしいと思われる発行者に委員の皆様の挙手をしていただければと思っております。よろしいでしょうか。

それでは「国語」です。東京書籍、「新しい国語」がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 では続きまして、三省堂、「現代の国語」がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

教育出版、「伝え合う言葉 中学国語」がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 1名。

光村図書出版、「国語」がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

それでは、教科「国語」、種目「国語」につきましては、三省堂、「現代の国語」を採択したいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは決定いたします。

続きまして、教科「国語」、種目「書写」の審議、採決に移らせていただきます。

指導室長より「書写」について説明をお願いいたします。

指導室長 続きまして、教科「国語」、種目「書写」でございます。

「新しい書写」、東京書籍でございます。内容につきまして、教科書の内容とも並行して、学習しやすいように工夫されております。使用上の便宜につきましては、教科書に直接書き込みやすい紙質になっております。

「現代の書写」、三省堂でございます。内容につきましては、硬筆の課題が毛筆に比べて多く、めあてが明確に示されております。使用上の便宜につきましては、薄い紙質となっております。

「中学書写」、教育出版でございます。内容につきましては、カラーや写真のページが多く、資料集として活用することができます。使用上の便宜につきましては、ゴシック体にUDフォントを使用しております。

「中学書写」、光村図書出版でございます。内容につきましては、お手本となる書写だけ

でなく、資料やカラーのページが多く、見やすいものとなっております。使用上の便宜につきましては、カラフルな資料が多いものとなっております。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

教育長 それでは、教科「国語」、種目「書写」についての審議をお願いいたします。

小林委員、どうぞ。

小林委員 書写に関してですが、光村図書か三省堂がいいと考えました。理由ですが、実はサイズが小さいということを挙げたいと思っております。書写は実際に作業を行いますので、教科書を開いた上で作業を行うことを考えると、サイズが小さいほうがいいのではないかという考え方からです。

光村と三省堂を比べてみますと、どちらかというとなら光村の方がいいかなと思いましたが、光村のいい点と考えた部分ですが、例えば書写のページの中に、「北西」あるいは「月光」と書かれているページがあるのですが、このページの中にあまり情報を盛り込みすぎていませんで、一つのことに集中できるという点があります。漢字を集中して見て、文字の美しさを味わうことができるというメリットがあると思いました。

また、2点目としては、これは先ほどの教育長のお話にもあったのですが、デジタルコンテンツに関しましては、判断基準がどうなのかということはあるのですが、光村の方がQRコードで読み取るデジタルコンテンツが充実していて、例えば書道の中での筆使いの動画があります。ただ、先ほど国語が三省堂ということでしたので、書写も合わせたほうがいいかなと、そのような思いもあります。

以上です。よろしくお願いいたします。

教育長 ほかに御意見はございますか。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 私は、書写は授業の時間が限られているということを考慮し、この四つの選択肢の中で一番ベーシックな形をとっている三省堂がよいのではないかと考えました。三省堂は、毛筆の部分がちょっと少なめで、一方で硬筆に関するページがすごく充実しています。現在、やはり硬筆の指導というのが実生活の関係でも非常に重要になってきているということも考えまして、この三省堂がいいかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、長島委員、お願いします。

長島委員 書写ですが、各者それぞれのページに目標が示されていて、例えば東京書籍の書き方は、「確かめよう」というところでは最初のページに点画の書き方と字形の整え方とある

わけですけれど、その下にすぐ目標があって、いいなと思ったのですけれども、よく見ますと各者それぞれ何々することができるとかいろいろ書いてあるので、そこら辺は大きな違いはないのかなと思いました。

三省堂につきましては、各単元の終わりに「書いて身につけよう」とか、「自分の言葉でまとめよう」とあるのがよいのかなと思いました。

教育出版の「中学書写」につきましては、調査会の調査研究報告書にありますように、写真が多いのかなという印象で、参考となる点は多いのですが、生徒からするとちょっと書くことに集中しにくいのではないかという印象も受けました。

光村につきましては、硬筆用ですが、「書写ブック」というのが挟み込まれていて、切り離して使えるようになっているのが特色だとは思いますが、先生方のアンケートの中にこの「書写ブック」の紙質、紙の質ですね、それがちょっと大丈夫かという意見もあったところが少し気になりました。

ということで、生徒が取り組みやすいのではないかということで、私としては東京書籍、あるいは三省堂という順番で現在、考えております。

以上になります。

教育長 では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 全体を通して感じたことは、朱の墨を使って辺とか、画とか、点とか、どんなふう
に筆が動くかというのが示されていて、そこは興味深く拝見したのですが、実際に墨で書いているのが真っ黒で、濃淡もかすれも全然なくて、いわゆる書道の美しさというのが全然なくなってしまっているのが、教科書はこれでいいのかなと思いました。僕は書道の展覧会とかに行って、小学生でも感動するというのがきっとあると思うので、標準のものとしてどうかというのを選ぶのは難しいかもしれませんが、それがあってもいいのかなというのは各者を通じて思いました。

いずれのものも工夫されているので、特別どれか一つということではありませんけれども、先ほど坂田委員がおっしゃった硬筆の重視というのが、やっぱり現代としてはもっともっとちゃんと字が書けるようになることが1人の人間の能力としても必要かなと思ったので、硬筆をより大切にしている三省堂、東京書籍がいいかなと思っています。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは私の意見ですけれども、先生方におっしゃっていただいているように、書写については毛筆と硬筆による文字の書き方について、基礎的な指導を行うという目的がございません。また、そういった書き方指導を通して文字文化の豊かさについて学ぶという視点もある

かなと思っています。

そういった意味では、私は教育出版、確かに文字の書き方だけではなくて、ちょっと資料が多いということはありませんけれども、日本の文化等についても深く学べる内容となっております。書き方の見本も多く示されておりますし、写真やコメントなど、この書写の教科書だけでも結構読み応えがある内容となっております。教育出版がいいかなと思ったところでは。

それでは、これもなかなか1者に絞るということもできませんので、先生方の最もふさわしいと思われる発行者につきまして、挙手をお願いしたいと存じます。

それでは初めに、東京書籍「新しい書写」がふさわしいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

三省堂「現代の書写」がふさわしいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 2名。

教育出版「中学書写」がふさわしいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名。

光村図書出版「中学書写」がふさわしいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名。

というところで、3名までに至りませんが、改めて、それでは先生方の今までの御議論を通して、では自分はこちらに変えてもいいよという方、いらっしゃいましたら、もう1回では挙手をしていただきたいと思います。

それでは改めまして、東京書籍「新しい書写」がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 三省堂「現代の書写」がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

ということで、では「書写」につきましては、三省堂「現代の書写」を採択することと決定いたします。

御手元の教科書を差しかえている間に、指導室長、次の教科「社会」、種目「地理的分野」の説明をお願いいたします。

指導室長 教科「社会」、種目「地理」でございます。

「新しい社会 地理」、東京書籍でございます。内容につきましては、世界の諸地域の単元は、地形についてイラストや写真と関連させております。また世界地理の方が多く書かれております。表現につきましては、「スキルアップ」でグラフなどの読み取り方が載っております。学習活動につきましては、単元ごとの「探究学習」の視点、チェックポイントの視点を掲げており、学習の方向性が示されております。

「中学社会 地理 地域にまなぶ」、教育出版でございます。内容につきましては、補助資料としてコラム「地理の窓」を設け、発展的内容への配慮がなされております。また日本地理の方が多く書かれております。表現につきましては、用語や補足説明の必要な箇所には巻末に用語解説や側注を設けてございます。学習活動では、各ページに「学習課題」「確認」「表現」が記載されており、学習の流れが示されております。

「社会科 中学生地理 世界の姿と日本の国土」、帝国書院でございます。内容につきましては、見開き左ページ下に小学校や歴史・公民とつながる単語が書かれております。日本地理の方が多く書かれております。表現につきましては、写真、雨温図、地形図、グラフが豊富でございます。学習活動では、それぞれの章・節には「問い」、各ページに「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」が記載され、学習の流れが示されております。

「中学社会 地理的分野」、日本文教出版でございます。内容につきましては、生徒の興味や関心を高めるためのクイズが設定されております。日本地理の方が多く書かれております。表現につきましては、紙面を大きく使い、地図、写真、イラストの配置を行っております。学習活動では、学習課題が掲げられ、そこに「見方・考え方」の視点が書かれております。本区の日暮里地区の写真が1枚ございます。

以上でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

教育長 それでは「地理」について、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 地理ですが、帝国書院か東京書籍がいいかと思ひました。まず帝国書院ですが、写真の資料が非常に充実してありまして、これは荒川区の調査研究報告書の中でも指摘されているのですが、写真の資料が豊富であるとともに、写真を見て考えさせるという工夫に優れています。例えば南アメリカの関係で、リオデジャネイロのカーニバルの写真を見て、南アメリカ等の歴史について考えさせるような、そういった発問が準備されているという点があります。

それと帝国書院、2点目ですが、問いの立て方が基礎を踏まえながら、それは「確認しよう」というのがありますが、さらに「説明しよう」というところで、発展的になっている

ということが良さとして指摘できます。

次に、東京書籍ですが、1点目としましては、各項目2ページ構成で、最初に学習課題があって、2ページ目の下にチェック&トライの発問がありまして、学習する上での道筋が非常に分かりやすくなっているという特色があると思います。

2点目としましては、グループ学習の進め方に関してもガイドがありまして、その意味では指導のしやすさがある教科書だと思っております。

大体2者でどちらかがと考えるのですが、どちらかといえば帝国書院かなと今のところは考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 私も小林先生に近い印象でして、帝国書院が東京書籍と考えました。帝国書院は、写真や図が非常に豊富で、また地理などの学習ではグラフを読み解いたりすることが重要かと思えますけれども、そういった学習に使いやすいグラフがたくさん盛り込まれていると思います。それから130ページから「身近な地域の調査」といった教材があるのですが、この部分は、こういった身近な小さな地域の調査、実際にやってみる、非常に重要なテーマではないかと思うのですが、ここの部分が充実しているように思います。

それから最初に申し上げたSDGsですけれども、「未来へ向けて」というコラムがあって、その中でSDGsにまつわる事例が取り上げられています。

東京書籍の方は、さらにSDGsというのを意識していて、教材全体として社会的なテーマに関して探究するような、そういった構成が、地理の中ではかなり多めに取り上げられているのではないかと思います。

いずれかと考えたのですが、私としては帝国書院の方を1番に挙げたいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、長島委員、お願いします。

長島委員 社会の地理的分野の「学習指導要領」を見ますと、社会的事象の地理的な見方、考え方を働かせ、広い視野に立って理解する力、あるいは多面的、多角的に考察し、公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、議論したりする力などを育成するということを求めているのだと思います。

そういった点で、この4者の教科書は写真とか図表を多用して、それぞれよく工夫されていると思いました。それがまず一番強く思っていることです。

ただ、見開きのページで写真とか図表が多いと、やや煩雑な印象を受けて、本文と写真・図表のバランスが大事かとは思いますが、バランスを取ろうと思うと情報量が少なくなったりとか、そこら辺は難しいのかなと思います。逆に写真とか図表が多いと、教科書本文に集中しにくかったり、結構迷ったりはしたわけです。

情報量から見ると、東京書籍と帝国書院かなと思いました。見やすさですと教育出版、日本文教出版かなと思いました。

それから、地理では日本の領土とか領域について扱うことに当然なっているわけですが、東京書籍と帝国書院については、領土とか領域の扱い方について、何かちょっと言い方は微妙ですけど、地理的な表現になっているのかなと思いました。

総合的に考えまして、帝国書院か東京書籍かなと思いました。それから例えばヨーロッパの移民であるとか、東日本大震災といった今日的な問題の取り上げ方とかから見ると、日本文教出版もいいのかなと思いました。

以上になります。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 どの教科書も小学校とのつながりを意識していらっしゃるって、いいなと思いました。その中であえてということであれば、ほかの委員の先生方と私も同様でございまして、東京書籍と帝国書院が印象に残りました。

東京書籍では、「スキルアップ」というのがありまして、グラフの読み方とか、少し発展というか、高度なものだと思うのですが、そういうところまでの理解に引き上げようとするもの、帝国書院の方は「技能をみがく」というコーナー、そこが印象に残って、この二つかなと。日本の地理の方を重視するのであれば帝国書院、世界地理の方であれば東京書籍という印象でございました。

以上でございます。

教育長 それでは私、高梨です。地理については、先ほど長島委員からの御発言にもありましたように、領土も含めて日本の国土について正しく理解させるとともに、地域の産業や特色などについて理解を深めさせること、そしてまた世界の各地域の特色や多様性について、基本的な知識を身につけさせるとともに、日本との関わりについて学び、国際的な視野を養うこと、そしてSDGsに見られるような今日的な地球課題についても理解を深めさせること、そういった学習目標がございます。

繁田委員の御発言にもありましたように、日本地理に重点を置くか世界地理に重点を置くかということですけど、私は中学生においてはまずは日本の地理についてしっかり理解させ

る必要があるのではないかと考えております。そうした意味では、情報量の多さ、また日本の地理的特色をしっかり子どもたちに学ばせる、資料も最新の資料を使っているというところから、帝国書院が最もふさわしいのではないかと考えた次第です。

それでは、先ほど来の議論をお聞きしてございますと、東京書籍と帝国書院についての御発言が多かったと思っております。

では順にお聞きいたします。東京書籍がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 1名。

帝国書院がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 4名。

ということで、「地理的分野」につきましては帝国書院を採択することといたします。

続きまして、「社会」、「歴史的分野」についての審議に移らせていただきます。

それでは事務局、説明をお願いします。

指導室長 教科「社会」、種目「歴史」でございます。

「新しい社会 歴史」、東京書籍でございます。内容につきましては、各章の初めに小学校で学んだ言葉や人物のイラストなどが掲載されており、小学校で学んだ内容を振り返りやすいものとなっております。表現につきましては、各単元の資料が大きく掲載されており、生徒に見やすく扱いやすくなっております。学習活動につきましては、見開きで導入 展開 まとめと探究課題の解決への流れが構造化されており、課題解決的な学習を構成しやすくなっております。

「中学社会 歴史 未来をひらく」、教育出版でございます。内容につきましては、近現代史に重点を置き、課題を追究するための工夫がされております。表現につきましては、本文と資料が関連付けられており、学習しやすくなっております。学習活動では、基本2ページ編成で「課題」「確認」「表現」を明確に提示されております。

「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」、帝国書院でございます。内容につきましては、「歴史のとらえ方と調べ方」にて歴史をとらえる見方・考え方を紹介しております。表現につきましては、考察に必要な資料が各ページに配置されており、生徒の考え、話合う学習がしやすくなっております。学習活動では、時代の特色やイメージをとらえやすくするため、「タイムトラベル」が設定されており、各時代を比べて話合うなど、言語活動を生かした学習を取り入れることができるよう工夫されております。

「中学歴史 日本と世界」、山川出版社でございます。内容につきましては、扉絵や本文

などで高校の教科書や図録に載っているイラストを紹介しており、高校の学習との接続が配慮されており。表現につきましては、原文をそのまま掲載している資料があり、教員が解説等の工夫をすることで、中学生に理解してもらうことができるものとなっております。学習活動では、資料については厳選されたものが多くございます。

「中学社会 歴史的分野」、日本文教出版でございます。内容につきましては、道徳で使われた題材が含まれるなど、教科横断的な部分があり、発展的に活用しやすいものとなっております。表現につきましては、ページ数が多い分、資料が多く掲載されており、見やすくなっております。学習活動につきましては、まとめや課題学習へのアプローチが学習内容からリンクしやすいものとなっております。

「新しい日本の歴史」、育鵬社でございます。内容につきましては、各章の導入に単元を見通した「歴史絵巻」があり、各時代の特色を大まかにとらえることができるよう工夫されており。表現につきましては、関連のある資料や本文のあるページを示すことで、学習しやすくしております。学習活動では、近現代史における資料は考えを深めることができるものが多くございます。

「ともに学ぶ人間の歴史」、学び舎でございます。内容につきましては、学習内容の構造化と焦点化が重視されており、各時代の特色をとらえやすい構造となっております。表現につきましては、見開きのタイトルに生徒の興味・関心を引くよう工夫されてございます。学習活動では、各ページに掲載された資料を基に、話し合いや考察する学習活動を行うことができるものとなっております。

以上でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

教育長 それでは歴史的分野についての御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 歴史的分野ですが、東京書籍、帝国書院、山川出版社が優れていると思いました。

まず、東京書籍ですが、具体的に授業に入ったときにどのように学習を進めるのか、そのためのガイドが丁寧になっているのが特色かと思います。「学習課題」が最初にあって、項目の2ページ目のところに「チェック・トライ」があります。また中で「見方・考え方」というのがついていて、考え方を深めるための学習ガイドとなっておりますし、あるいは「みんなでチャレンジ」というのがついております。これはグループ学習へのガイドとなっております。その意味で学習の道筋が示されておりますので、指導しやすいということが指摘できるかと思います。

東京書籍2点目ですが、引用する資料につきまして細かい点で配慮がされていると思いました。歴史ですので、引用資料は極めて重要だと思うのですね。その意味で東京書籍につい

て考えますと、資料の出典に関してよりいいものを使用している、あるいは資料に関する解説が丁寧と思われます。また、その資料の出典に関しましては著作者名まで明記されているとか、あるいは平仮名をルビとしてつけているということがありまして、資料に関しまして細かい点で配慮がされていということが指摘できます。

帝国書院ですが、1点目としては非常にバランスがとれている教科書であると思えました。

2点目としては、教材としてQRコードで読み取れるデジタル資料が充実しているということも指摘しておきたいと思えます。

3番目の山川出版社ですが、内容的には少し高度で、高校との接続を考えているということもあるかと思うのですが、非常に興味深い内容です。最初の部分で、「歴史との対話」というのがありまして、「私たちと歴史」ということで、暦の説明から始まっておりまして、歴史学習の導入になっている点があります。

2点目は各都市の紹介で、地域からのアプローチというのがあります。奈良、福岡、札幌、金沢等の地域から、どういうふうに歴史を見ているのかというアプローチがありまして、これが充実していると思えました。

ただ、以上3者を挙げさせていただいたのですが、総合的に考えると東京書籍がふさわしいかと思えます。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 私は二つ挙げたいと思えます。

一つは東京書籍です。東京書籍は、子どもたちから見ると歴史は、時代の境目があったり、それから海外との関係があたりとか、いろいろあるわけですがけれども、そういった中で全体を見渡しやすいつくりになっているなと思えました。また、写真と文のバランスというのがちょうどよくて、子どもたちから見ると興味を引かれやすい紙面の構成になっているものと思えました。

それから単元の最後に「まとめ」というのがありまして、このまとめがあるのが非常に良いのではないかと思います。どうしても歴史ですので叙述的になるわけですがけれども、そういったものを一定の区切りごとにまとめていく構成はいいと思えました。

それからもう一つは、山川出版社ですがけれども、小林委員がおっしゃったようにやや難易度は高いのですが、やはりさすがに多数の歴史に関する書籍を出されている、そういった基盤があって、非常に充実した内容で奥行きもあるなと思えます。荒川区との関係でも荒川ふるさと文化館とか、道灌山というのが取り上げられています。

山川について一番いいなと思ったのは、歴史に関して日本の歴史と、それから世界史を、同時代を横に見て考えるということが重要なのですが、これが子どもたちから見て結構難しいのですね。歴史の流れがそれぞれ地域によって違いますので、結構そこをつなげるのが実は子どもたちの感覚からすると結構難しいと私は思うのですが、その日本と同時代の世界を横に見てつなげるという点においては、この山川の教科書は非常に優れていると思います。加えて、地域からのアプローチというのがあって、日本と世界と、それから地域というのは日本の場所ということです、例えば福岡とか。そういったものを立体的に構成していると感じられます。

そういうことで親しみやすさをとれば東京書籍、それから文献などの材料の豊富さと立体感ということで見ると山川出版社のいずれかと考えております。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 歴史的分野の目標の一つで、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するというのがあるのですが、各者の教科書を見させていただいて、時代を遡れば遡るほど、坂田委員がおっしゃったように、世界の流れと日本の流れと、つぎはぎみたいな感じになっていて、例えばギリシャ・ローマ、中国の文明があって、日本の旧石器時代で縄文・弥生とかと出てくる。それは時代が下ってくるとまた大分違ってくることにはなるのですが、なかなか難しいのかなと思いました。それが第1の印象です。

それから7者ありますが、その中で学び舎が判型だけではなくて、重要な語句を太字で示していないという点では唯一の教科書だと思いました。その分読みやすいということがあるのですが、ただ、全体として中学生にはやや少し難しいのかなという印象を受けました。

それから山川出版社ですが、坂田委員がおっしゃったように、荒川ふるさと文化館の記述があったり、全体として扱われている資料も充実していると思いますが、やや少し難しいのではと思います。

残りの5者ですが、多くは見開きの左のページの冒頭に学習の課題を示して、見開きの右ページの下の方に確認であるとか、チェックとか、あるいは何か表現とか説明しようとかということで、締めくくっているところは共通しているかと思いました。

図表と本文になって、見開きのページいっぱいを使ってたくさんの資料を示そうとすると、ちょっと見づらかったり、あるいは本文に集中しにくかったりするわけですが、逆に見やすくしようとするとも情報量が少なくなるという点もあるのかと思います。

そういうところをいろいろ考慮しまして、帝国書院か東京書籍のどちらかかなと現在は考えております。

以上になります。

教育長 ありがとうございます。では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 どの教科書も資料とか写真が本当に見応えがあって、楽しく拝見させていただきました。既に委員の先生方が御指摘になっていることと重複しますが、例えば山川出版は、読み応えがあるといえますか、読んで面白いというか、興味を持てる内容ということを実感しましたし、やはり、より重要、これからの時代のことを考えると、近代以降だろうということであれば教育出版ということになるのではないかと思いました。

その一方で、より多くの、たくさんの生徒さんたちが興味を持っているとなると、やっぱりページのつくりであったり、見せ方に私は引かれるのではないかと思ひまして、ページごとに絵の大きさと写真の大きさと配置というのに変化をつけると単調にならない、それは東京書籍と帝国書院が上手だなと思ひました。より多くの生徒さんが、あまり歴史が好きでない生徒さんも含めてということであれば今、申し上げた二つかなというところがございます。

教育長 ありがとうございます。

歴史的分野については、歴史上基本的な出来事ですとかキーワードはきちんと学ばせつつも、その出来事があったと、何年にあったというだけではなくて、その影響ですとか因果関係を歴史の流れの中で理解し、時代を体感してその特色を多面的、多角的に考える力を養うことも求められております。こうした中、各者の教科書を拝見いたしましたけれども、中学校の教科の中で各者の特色が最もよく表れているのがこの歴史的分野の教科書だと思ひてございます。先ほど来御指摘がありましたけれども、ともすれば駆け足学習になりがちな近現代史を重点的に取り上げているものもありますし、日本人の宗教観ですとか、伝統文化を重んじているものもありました。また、出来事の因果関係について細かく説明しているものもあって、大変興味深く見させていただきました。

その中で、では自分がもし歴史の勉強をするとしたら最も読んでみたいというのは、山川出版社でした。「世紀の世界」と題して、世界の趨勢を概括的に示し、その中で日本の歴史はどう動いていったのかを大局的な視点でまず理解させておりますし、各章の冒頭でも日本史と世界史の歴史軸が対比する形で上下に示されておひまして、グローバルな視点で歴史を捉えやすいという内容になっています。内容も豊富で充実しております。

ただ、先ほど来先生方の御指摘にもありましたように、中学生で歴史を初めて学ぶ子たちにはちょっと難しいかなというのがありまして、自分が見るのだったら山川かなと思ひたのですけれども。

前置きが長くなりました。教科書としては、東京書籍か教育出版がいいのではないかなと

思った次第です。見開きの2ページで導入から内容、参考資料、確認、そしてまたまとめということで、1時間の授業時間を十分に意識した構成となっております、教えやすい、学びやすい、議論しやすい内容となっております。

それでは、歴史的分野につきましても意見が分かれておりますので、順に者名を挙げますので、挙手によりふさわしいと思われる教科書を推薦いただければと思っております。

まず初めに、東京書籍ですね。

〔挙手〕

教育長 3名ですか。

それでは、東京書籍で決定という形になりました。

それでは、続きまして「公民」ですね。「公民」について、説明をお願いいたします。

指導室長 教科「社会」、種目「公民」でございます。

「新しい社会 公民」、東京書籍でございます。内容につきましては、書き込み式のワークスペースが充実しております。学習活動につきましては、授業ですぐに使用可能な課題が多く掲載されております。

「中学社会 公民 とともに生きる」、教育出版でございます。内容につきましては、発展・補充教材も適度に掲載されております。学習活動では、生徒の主体的な学びを促す構成になってございます。

「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」、帝国書院でございます。内容につきましては、見開きのページが見やすいレイアウトになっております。学習活動では、生徒の主体的な学びを促す構成になっております。

「中学社会 公民的分野」、日本文教出版でございます。内容につきましては、本文・資料とも全体的に文字数が少ないため、見やすく分かりやすい構成になっております。学習活動では、生徒の主体的な学びを促す構成になっております。

「新しい公民教科書」、自由社でございます。内容につきましては、章末のワークスペースは枠だけ設けられた部分が多くなっております。学習活動につきましては、国際社会の単元では国際平和をどう作り上げるのか考えさせるものとなっております。

「新しいみんなの公民」、育鵬社でございます。内容につきましては、内容構成のバランスがよいものとなっております。学習活動では、生徒の主体的な学びを促す構成になっております。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

教育長 それでは「公民」についての御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 公民ですが、東京書籍、あるいは帝国書院がいいかなと思いました。

まず東京書籍ですが、その特徴の1点目として、どのように学習を進めるのかが明確であるということです。見開き基本2ページ構成になりまして、各項目ごとに「学習課題」があり、2ページ目、下に「チェック・トライ」がついていて、簡単な内容から難しい内容という道筋が明らかになっております。

2点目ですが、身近なテーマが取り上げられている点です。例えば24ページのところ、「社会集団の中で生きる私たち」というところがあるのですが、2年前の学校でのトラブルについて考えようというのがあり、その次に1年前の学校でのトラブルについて考えようというのがあり、そして現在の学校でのトラブルについて考えようというところがありまして、段階的に振り返りながら考える内容になっていると。その上で、どのように対立をここに持っていくのかという考えを導いている点など、非常にいいのではないかなと思いました。

3点目としては、内容が比較的平易であるということ、4点目としては書き込みのスペースが豊富であるということなども特徴として挙げるができると思います。

帝国書院ですが、1点目としては、どのように学習を進めるのかが明確であるというのを特徴として挙げたいと思います。

2点目ですが、非常に魅力的に思われたのが、経済の部分が非常に充実していることです。これは東京都の教科書調査研究資料でも指摘されていることですが、経済の部分が充実しております。興味深い学習内容が盛り込まれています。例えば133ページのところにあるのですけれども、ライフプランからお金について考えてみるということで、自分のライフプランを立て、そのライフプランを実現するために必要なお金はどれぐらいか考えていこうというものなのですね。今後21世紀を生き抜いていくためには個人が経済について知識を身につけることが非常に重要と考えておりまして、その意味では非常に優れた内容なのではないかなと思いました。

以上から勘案して東京書籍、帝国書院がいいかと思ったのですが、どちらかというところ東京書籍かなと思いました。

以上です。

教育長 それでは、坂田委員、お願いします。

坂田委員 各者の教科書、実はまず基本的には公民の分野は構成がほとんど同じでして、多少、第1章で帝国書院は情報から入っていて、東京書籍はほかの項目から入っていると、ちょっとした差はありますけど、構成は極めて類似しているというのが公民の特徴だと思いますので、そういう観点から子どもたちが学びやすいような展開になっているかどうかということを中心に選定させていただきました。

その中で、東京書籍が私は良いと考えております。例えば「みんなでチャレンジ」だとか、「公民にアクセス」だとか、こういったコラムが非常にたくさん出てくるわけですが、そういったものをずっと論点として追っていくと、現代社会において公民で学ぶべき点がかなりいい論点で抽出できていると、私としては考えます。

そういった論点は、きちんと押さえながら、振り返りだとかまとめというところなのですが、そういったところで全体像を整理して、そのブロックの学習を体系的に後のところで整理すると、こういったような流れが子どもたちにとっては学習しやすいのではないかと考えまして、東京書籍を推したいと思います。

教育長 では、長島委員、お願いします。

長島委員 全部で6者なわけですが、1者、自由社を除いて各章の初めに、例えば東京書籍であると「導入の活動」とか、教育出版ですと「学習のはじめに」ということで、5者については各章の初めに導入についての記述があると。そして、中身に入りますと今度は見開きのページになっていて、左側の初めのところに学習の課題が示されていて、右側のページの最後のところで、下の方で確認とか、チェックとか、表現とか、説明しようとか、トライといった形で締めくくるとというのが共通かなと思います。

また各章の終わりに、基礎基本のまとめであるとか、まとめの活動とか、あるいは東京書籍の「もっと公民」とか、教育出版ですと「学習のまとめと表現」という形で、章の終わりでまとめているということも共通していると思いました。

それで各単元といいますか、各節の見開きのページで学習の進め方というか、生徒の学びやすさというか、そういったところに注目しますと、例えば教育出版は学習課題、左側のページの最初の学習の課題から、右側のページの確認とか表現まで、学習の進め方が分かりやすくなっているのかなと思いました。

同じような形で東京書籍も導入が、ページ左側の「学習課題」からページ右側下の方の「チェック・トライ」という形ですが、各者共通する部分はあるのですが、教育出版と東京書籍の進め方が、私からすると分かりやすいといいますか、進めやすい、生徒からすると学びやすいのではないかと思います。

教育長 ありがとうございます。

では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 考えたり、ある程度作業みたいなことを通して学習するということをもっと強調してもいいのかなと全体を通して思いましたけれども、それでも書き込みのスペースがある教科書は幾つかございます。その点と、もう一つは、今年は新型コロナウイルス感染拡大当初は日本人が差別を受けたという、ふだんあまり差別を経験していない人がそういう経験をし

たり、あるいはアフリカ系のアメリカの方がアメリカでいろいろ人権の問題で大きく取り上げられるというか、問題になっていたりということを考えると、やはり個人的には国際社会での人権の問題ということも触れているほうがいいなと思ひまして、その点からすると先生方、既に御指摘の東京書籍かなということでございます。

以上でございます。

教育長 私、高梨です。公民については、現代社会の特色ですとか社会構造についての理解を深め、個人と社会との関わりの中で社会の一員として生活し、貢献する姿勢を養うということで、今、地域で生活している人間として、どういった社会の中で自分は生きているのか、また、これから社会人となる中で、どのように生きていくのかという生きる姿勢を養うということが重要になってくる教科であると思ひています。

その中で、私が注目したのは地方自治とか地域問題について、どのように取り上げているのかということところです。その中で、先生方から多く推薦されていましたが、東京書籍については住民参加の事例を多く取り上げており、政治参加をしてみようですとか、あるいはまた市長になって条例制定をしてみようというようなグループワーク、話し合い活動についての提案も記載しているなど、生徒たち自身が主体となって地域問題について考えさせる内容となっております、深く学ぶ、そういったことができるのかなと思ひた次第です。

それでは、大方東京書籍を推している先生方が多かったわけですが、改めて挙手によりまして確認をさせていただきたいと思ひます。東京書籍がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 4名。

東京書籍に決定いたしました。

続きまして、社会の「地図」ですね。「地図」について事務局から説明を受け、審議に移らせていただきます。この地図の採決が終わったところで10分間の休憩に入りたいと思ひます。

指導室長 教科「社会」、種目「地図」でございます。

「新しい社会 地図」、東京書籍でございます。内容につきましては、地理で学ぶ課題に関する地図が豊富で、現代の諸課題やエネルギー問題など教科書に沿った形で資料を掲示しております。学習活動につきましては、教科書の資料と併用して発展的な学習が可能でございます。

「中学校社会科地図」、帝国書院でございます。内容につきましては、「日本の諸課題」や「世界と日本のつながり」に関してまとまっているページがあり、世界の国々のイラストを

配した鳥瞰図も掲載されております。学習活動につきましては、地理的な見方や考え方を身に付けさせることを目的とする作業コーナー「地図活用」を設けてございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

教育長 それでは、「地図」につきましての御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 地図ですが、帝国書院がいいと思えました。帝国書院を見せていただきまして、優れていると思った点ですが、1点目としまして、東アジア、これは日本にとりまして非常に重要かと思うのですが、ここが充実しているという点です。例えば朝鮮半島に関しましても2ページにわたって掲載されております。また「東アジアと日本の交流の歴史」というページがあるのですが、これは大陸の方から日本を見た地図でして、興味深く思われました。これは1点目としてあります。

2点目ですが、これは考え方の問題なのかもしれませんが、帝国書院の方が軽くて持ち運びに便利という点を、私としては挙げておきたいと思っております。重さを量らせていただいたのですが、帝国書院の方が地図が525グラムで、東京書籍は590グラムだったのですが、やはり地図というのは手にとってみたくなるものですし、軽量なほうがいいのではないかと思いました。

ただ、東京書籍に関しましても非常に優れていると思います。東京書籍の特色としては、1点目として、統計資料が非常に充実している点があります。それと中国の地名で見ますと、片仮名表記とともに漢字の表記が東京書籍の方がきちんと入っていると思うのですね。中国、台湾の地名ですと、片仮名表記だけですともともとの発音と異なる部分も多いので、その意味では漢字を表記しているという点で東京書籍、いいなと思いました。

結論的には帝国書院がいいと思っております。

以上です。

教育長 それでは、坂田委員、お願いします。

坂田委員 教科書は持ち運びの利便性とか、収納の利便性を考えると、私はあまり大きい判はちょっと課題があるなと一般的に思っているのですが、この地図だけはやはり見比べてみると帝国書院の方が軽いのですが大判になっていて、やはり判の大きさが地図を見る上ではかなり生きているなと思います。子どもたちが地図帳をめくりながら興味を持ってそれぞれの地域を見渡していくような、そういったことが地図帳の理想ではないかと私は思っています、その点からすると帝国書院の方が優れていると思います。

もちろん東京書籍の方は、先ほども指摘がありましたように、資料、データ等は非常に充実しているのですが、地図という素人観点で考えると帝国書院の方がよいのではないかと

う考えです。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 東京書籍と帝国書院、それぞれ見どころがあると思ひまして、かなり迷ったわけですが、地図以外の資料図といひますか、さっきも言われたように、例えばアメリカのところ、東京書籍ですとロサンゼルス民族居住地区とか色分けされていたり、帝国書院ですとシリコンバレーの鳥瞰図があったり、眺めてみると結構楽しいといひますか、こういうふうになっているのかといふことで、それぞれ興味深かったわけですが、ぱっと見て東京書籍の方が地図以外の資料図が多いという印象を受けたのですが、東京都教育委員会の教科書調査研究資料では、資料図は帝国書院の方が多くなつてしまひ、あと判型についてはいろいろな意見があるかと思ひますけど、A4判でちょっと見やすいといふところもあるかと思ひ、帝国書院の方を推したいと思ひます。

教育長 繁田委員、お願いします。

繁田委員 どちらの地図も興味深く拝見いたしました。私も教科書とのマッチングといひますか、セットでといふことで帝国書院ですけれども、内容として東京書籍の現代的な諸課題のところは大変興味深く拝見いたしました。今の時代といふことであればこちらですけれども、より普遍的な各国々の生活とか文化といふのを地理では強調していただくほうがいいのかなといふことで、帝国書院の世界の生活・文化の方が中学生には見てもらいたいと思ひまして、帝国書院といたしました。

教育長 帝国書院を推す先生方ばかりですけれども、私も2者を比較する中で、帝国書院がいいのではないかと考えました。地理で帝国書院に先ほど採択を決定いたしましたけれども、地理の授業と合わせてこの地図を活用することが多いといふことからしても、同じ会社の方が見やすいのではないかとこのころがあります。そして、また資料も充実しているところがございます。

ただ、1点だけ、荒川区の地図なんですけど、帝国書院では東京都周辺の地形というページでは荒川区全体が載っているんですけれども、東京都の中心部といふと荒川区が若干欠けてしまひまして、町屋地域と尾久地域が掲載されておられません。

一方で東京書籍については、これは10万分の1の地図を使っているということもありますけれども、足立区は入っていないんですけど、荒川区は町屋地域も尾久地域も全部入っているといふところで、帝国書院については考えてもらいたいと思つたところなんです。

それでは、先生方の意見が出そろつたところで、皆さん帝国書院を推されておりますけれ

ども、「地図」につきましては、帝国書院を採択することで御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは帝国書院と決定いたします。

では、今、15分ですので、3時25分まで休憩といたします。休憩後は「数学」からまた採択をさせていただきます。25分まで休憩といたします。

〔休憩〕

教育長 定刻になりましたので、採択を改めて進めさせていただきます。

教科「数学」、種目「数学」についての説明をお願いします。

指導室長 教科「数学」、種目「数学」でございます。

「新しい数学」、東京書籍でございます。内容につきましては、生徒の理解度を配慮した問題設定になっております。表現につきましては、全体的に文章や計算問題と、絵・図・表・グラフがバランスよく入っております。学習活動につきましては、考えさせたり、話し合っ解決させる問題提起がございます。

「数学の世界」、大日本図書でございます。内容につきましては、巻末に各学年で学習した重要な項目をまとめており、冊子にして持ち運べるようになっております。表現につきましては、連立方程式の解き方は、加減法、代入法で、ページの色分けをしております。学習活動につきましては、各単元に問題解決学習の設問があり、グループ活動や対話的な学びを行うことができるようになってございます。

「中学校数学」、学校図書でございます。内容につきましては、例題から問いにかけての問題数が充実しております。表現につきましては、QRコードがついており、プログラミングも体験できるように構成されております。学習活動につきましては、発表をする側と聞く側についての記載がございます。

「中学数学」、教育出版でございます。内容につきましては、分数のほか算数が苦手だった生徒に配慮した中1ギャップ対応の内容が巻頭、章の扉、巻末と随所に配列されており、量も質も充実しております。表現につきましては、数学史や社会での数学の活用場面を意識した内容が豊富でございます。学習活動につきましては、「みんなに説明しよう」、「友達の考えを知ろう」という記載があり、話し合い活動が行えるような設問がございます。

「未来へひろがる数学」、啓林館でございます。内容につきましては、巻末に発展的な問題や活用の問題が掲載され、問題数も適量でございます。表現につきましては、プログラミング的思考を育む学習を扱っております。学習活動につきましては、「説明しよう」、「話しあおう」という記載があり、問題解決や言語活動を積極的に行えるような設問になってございます。

「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの数学」、数研出版でございます。内容につきましては、発展的な学習内容を取り扱うページが多くございます。表現につきましては、アルファベットの確認表などの工夫された資料が多くございます。学習活動につきましては、生徒同士の会話の機会が多く設定しており、実際の授業を行ったときに話し合い活動を前提として構成がなされております。

「中学数学」、日本文教出版でございます。内容につきましては、チャレンジ問題の量が充実しております。表現につきましては注目すべき数をマーカー式で強調してございます。学習活動につきましては、対話シートがあり、ノートにそのまま貼れる仕様となっております。

以上でございます。

教育長 それでは「数学」につきまして、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 数学の教科書の選定に当たりますと、まず1点目としては基礎を重視している、これをポイントとして選びました。2点目としては日常生活との関係という点に注目して選定をさせていただきました。その結果ですが、東京書籍か啓林館が優れていると思われました。

まず東京書籍、1点目ですが、基礎的な内容が非常に充実しています。基礎的なことを積み上げて次第に発展的な内容に導いている点があります。

2点目ですが、導入の課題で日常生活と関係するような内容を持ってきておりまして、例えば牛乳パックを回収してトイレットペーパーと交換するとか、そのような話題をまず持ってきて、身近な話題から入っていくという工夫がされている点です。

3点目として、抽象的な考え方、数学というのはどうしても抽象的なものなのですが、それを実際に図式的に分かりやすく見せる工夫がされておりまして、理解を助ける点が優れていると思われました。

一方、啓林館ですが、1点目としましては基礎的なことを手がたく教えるという点があります。問題をやりながら達成感を感じるというのが重要ですので、この点非常に重要と思われました。

それと啓林館ですが、2点目としましては、事例が非常に興味深い内容になっています。1年生の方程式のところを見せていただいたのですが、校外学習で出かける場合に1日乗り放題のチケットを買うか、あるいは1回ごとに切符を買うかといった事例がありまして、数学を用いることで経費を節約できるということが示されています。数学は日常生活に役立つということを示す事例でもあります。

それと啓林館、3点目ですが、「みんなで学ぼう」というのと、「自分から学ぼう」という

のに分かれておりまして、「みんなで学ぼう」というのは基礎的な内容、「自分から学ぼう」が発展的に学ぶためのものという形で分かれております。こういった分け方をされておりますので、習熟度別学習にも適しているのではないかと思います。

以上、総合的に考えて、啓林館がいいと考えました。

以上です。

教育長 それでは「数学」について、ほかに。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 まず数学の教科書全体としてなのですけれども、各者とも最後にデータ活用というのがあって、主に統計的なことを学ぶことになっているのですが、若干やっぱり数学の教科としてそれをもう少しその他の部分と統合するような、タイトルはデータ活用なので、データ活用というのと、もう少しほかの部分ですね、統合するような教科書における検討がやっぱりまだこの点は足りていないのかなと、全体として私はそう思います。

それはそれとしまして、私としては東京書籍と啓林館と、それから数研出版、それから大日本図書の四つを候補として抽出し、深く検討してみました。

東京書籍ですけれども、アンケートを見ると0章というのがあるのですね。これは1章ではないのではないかという御意見があったりとか、一方で、今回問いと確かめというのが問いに集約されたので、教科書としては使いやすくなったという御意見がありました。私も確かにそれはそうだなと思います。

私は数学の面白さというのは、やっぱり子どもたちが分かったという、そういう感覚を感じるということが非常に重要だと思っていて、分かったといううれしさを感じるという意味では東京書籍の教科書は非常に優れていると私は思います。例えば1年生の200ページのところに線、それから面、立体へということを体系的に理解するような部分がありまして、そこに使われている図は直観的な理解を助けるという意味では、非常にいい内容になっていると思います。そういうような直観的な理解を助けて、分かったという面白さを知らせるには東京書籍は優れていると思いました。ただ、若干、啓林館に比べると難易度が高いという印象はあります。

啓林館は、アンケートでは見やすさで非常に支持が高いと思いますけれども、必要なことを手がたく教えているという印象で、作り方は非常にシンプルなのですけれども、見た感じすっきりとしていて、学びやすいということは事実だと思います。

それから数研出版は、ちょっとこの中では難易度が高めの教科書になっていて、問題数が非常に多くて、確認問題から問題A、Bとかそういうふうになっていて、数学って確かに例題をどんどんやらせて、それによってきっちり習得させるということが大事なのですけれど

も、そういったところは非常に配慮された教科書ではないかと思います。

探究ノートというのが各学年にあるのですけれども、これは結構やはり発展的な内容も含んでいて、実際にこういった探究ノートを使いこなせるかどうかというのは、ちょっと難しいところかなと思いました。

それから大日本図書ですけれども、これは東京書籍と私は似ていると思いますけれども、落ちついた感じの紙面で、東京書籍と同様に直観的な理解を助ける上では非常にいい図がたくさん載っていると思います。それから、3年生になると何か問題集的になってくるところもあるのですけれども、この教科書は問題集的にならずに3年まで落ちついているという感じがあります。

印象としては、バランスを考えると私は東京書籍か啓林館か、いずれかと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 全部で7者あるわけですが、各者についての印象、まず、そこから述べさせていただきます。

東京書籍ですが、章の終わりに章の問題A、章の問題Bということで、理解の確認と、それから応用と活用が示されていて、生徒からすると取り組みやすいのではないかと思います。また、各章の扉も工夫されていて、興味深く拝見しました。

大日本図書ですが、ページに余白が多くて見やすいのではと思いました。東京都教育委員会の資料ですと、例題問題の問題数は7者の中で最も多いのが大日本図書となっております。

それから学校図書ですが、各章の入り方が工夫されていると思いました。

それから教育出版です。余白の関係か、ちょっと煩雑な印象を受けました。ややすっきりしないという印象を受けました。索引があるわけですが、そこに日本語と英語が示されていて、これは興味深く見させてもらいました。

それから啓林館は、委員の先生方からありましたように、「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」に分かれていて、特に「みんなで学ぼう編」は説明と例題、それから問題と分かりやすく示されているのではと思いました。

数研出版ですが、説明、例題、問題となっているのですが、やや単調な印象を受けました。別冊で「探究ノート」があるわけですが、これは坂田委員と同じような印象を受けました。やや難しいのかなという感じです。東京都の教育委員会の資料ですと、例題・問題の問題数は7者のうちで最も少ないようです。

日本文教出版については、余白の関係なのか、各ページ割とすっきりして見えました。索引があって、ここは日本語と英語が示されているということで、興味深かったです。

それで7者を通して、比べてみるのもあるのかなと思って、2年生の1次関数について各者比べてみて、自分が学習するとしたらどうなのだろうということで見させてもらい、そういったことから言いますと、学びやすさという点では啓林館、あるいは学校図書、東京書籍の3者かなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 一般の方も含めてアンケートの中で気になったのは、やっぱりだんだん厚くなってきているので、持ち運びのことを心配している意見がありました。考えていかなければいけないことかなと思います。発行者によってはかなり厚さが違いますので、場合によっては分冊ということもあるのかもしれないと思いました。それぞれ教科書によって苦手な生徒さんへの配慮であるとか、そういったところは違うかと思えますけれども、印象に残ったのはほかの委員の先生方と同じでございます。東京書籍と啓林館。

東京書籍の方は、説明が上手といいですか、私は数学者ではないのですけれども、説明が分かりやすいなという印象。啓林館の方は手を動かして勉強するというか、力をつけていくということで、個人的な経験からするとやっぱり手を動かして力をつけていくほうが実際には実力がつくのかなということで、1番、啓林館、2番、東京書籍という感じでした。

以上です。

教育長 ありがとうございます。実は私も数学を見させていただく中で、数学の得意な子も苦手な子もまずは基礎的な概念ですとか、原理、法則などをきちんと理解すること、そしてまた数学の楽しさやよさを実感できること、それを日常生活にどうやって生かせるかというところを重視して見てみました。

その中で、印象に残ったのが、東京書籍と啓林館です。先生方と同じです。東京書籍については、資料もイラストだとか写真だとかを多く使って、見やすくなっておりまして、また補充問題ですとか自由研究などの参考資料も掲載されておりまして、生徒の学びの程度といえますか、学びですとか関心の具合で活用できるのではないかなと思いました。

一方、啓林館は、本当に教え方がすっきりしていて、簡潔明瞭に説明があって、着実なステップで課題学習ができる工夫がされているのではないかと。ページ構成もすっきりしているなど感じた次第です。

それでは、採決に移りたいと思います。東京書籍と啓林館を推薦されている先生方が多か

ったわけですけど、それ以外の発行者も含めて者名を挙げますので、挙手をお願いしたいと思います。

東京書籍を推薦される方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

啓林館を推薦される方。

〔挙手〕

教育長 4名、ということで「数学」については、啓林館と決定いたしました。

それでは、続きまして「理科」に移らせていただきたいと思います。教科「理科」、種目「理科」について説明をお願いします。

指導室長 説明させていただきます。

「新しい科学」、東京書籍でございます。内容につきましては、学年が進むにつれ1回のページ数が増え、発達段階に配慮した量になっております。表現につきましては、短文で明確な説明になっていて理解しやすいものとなっております。学習活動につきましては、探究をテーマにして主体的・対話的で深い学びにつながる構成になっております。

「理科の世界」、大日本図書でございます。内容につきましては、生活・産業・科学史との関連が分かりやすくなっております。表現につきましては、生徒にとってなじみのない言葉は欄外に補足がございます。学習活動につきましては、問題解決型の題材が豊富で、学習の進め方についても明示されております。

「中学校科学」、学校図書でございます。内容につきましては、学習指導要領に沿った編成で発展の部分が多く、全体量が多くございます。表現につきましては、基本的にはオーソドックスな教材や画像を取り上げております。学習活動につきましては、日常生活との関連を重視し、取り上げる題材や補充資料はふだんの生活の中で見るもの、触れるものを取り扱っております。

「中学理科」、教育出版でございます。内容につきましては、章ごとの問題は少ないが、単元ごとの確認問題は充実しております。表現につきましては、文字は太く重要語句は赤字で表記され、見やすいものとなっております。学習活動につきましては、「考えよう」、「話し合おう」の категорияが豊富でございます。

「未来へひろがるサイエンス」、啓林館でございます。内容につきましては、高校への接続、発展的な内容、応用技術などの紹介がございます。問題は充実しております。表現につきましては、挿絵の資料は適切で現代的な課題が提示されております。学習活動につきましては、主体的・対話的で深い学びにつながるよう配慮されております。

以上でございます。

教育長 それでは「理科」についての審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 理科に関してですが、東京書籍、啓林館、大日本が比較的いいかと考えました。

まず東京書籍ですが、1点目としては、学習の手順が非常に明確です。問題発見が最初にあり、課題の提示があり、実験あるいは観察、さらに結論を表現し、活用するという流れが明確に示されていて、学習しやすいのではないかとということです。

2点目としましては、実験を重視しておりまして、また実験のページと記述のページが分かれていて見やすいのではないかとあります。

3点目ですが、レポートの中の考察の書き方、あるいは話し合いの仕方であるとか、グラフのかき方とか、そういった細かい点でのアドバイスがありまして、これが非常に分かりやすいといった点で優れていると思いました。

ただ、東京書籍に関しましては、サイズが変形になっておりまして、見本展示会でのアンケートを見せていただきますと、この辺りが必ずしも歓迎されていない部分があるのかなという印象を持ちました。

次、啓林館ですが、読んでいて非常に面白い教科書でした。啓林館が優れている点としましては、実験をして、その上でさらに深く考えさせる内容となっているということです。身の回りの物質の単元でも、物質、Xというのを出してきて、いろいろと調べる。その次に、実際に出した仮説が課題を解決するものになっているとか、新しい課題はあるとか、そのような問いが投げかけられておりまして、学習を深めていく、そういったきっかけが与えられている点があると思います。

さらに啓林館ですが、日常生活と理学的検証を結びつける項目が非常に多いということです。それは東京都の資料の中でも提示されているのですが、理学的な現象と日常生活をいかに結びつけるかという工夫がされている点が優れていると思いました。

大日本図書に関しましては、実験を重視していること、あるいは簡潔な記述という点で優れていると思いました。

以上を総合的に勘案して、東京書籍、あるいは啓林館がいいかと思ったのですが、啓林館は少し難しいかなという思いもありまして、総合的には東京書籍がいいと現在の段階では考えております。

教育長 ありがとうございます。

次に、坂田委員、お願いします。

坂田委員 社会は分野が三つに分かれているのですけれども、理科も本当は違う性格のものに

分かっているわけですね。文部科学省のお考えはよく理解できませんが、それらが一つになっているわけです。一つの教科書で違う分野をカバーしないといけないところが、この分野の難しいところだと思います。

そういう意味で、單元ごとに、私は教科書のテイストに違いがあってもいいのではないかと思いますし、学年ごとに取り上げ方も違うので、学年ごとに違いがあっても別に普通ではないかなと思うのですが、ざっと見渡したところ各者あまりそういう感じがなくて、同じトーンで進んでいくという、そういう感じになっていると思います。その結果、本当は電流・電圧とか、数学のように計算問題がたくさんあって、理解のために実際に手を動かして計算してみるようなことが必要な部分もあるわけですけど、そういうところは各者とも若干薄くなっているように、そういうふうに感じます。

それが全部に共通なので、それはやむを得ないとして考えたのですけれども、私は東京書籍と大日本図書と、それから啓林館の三つを第1候補として選びまして、深く検討してみました。

東京書籍は、課題、それから実験の場合は操作や使い方、実験、考察といった、そういった実験ものに関しては、その流れが非常によく、それから実験の説明も図について細かく検討してみたのですけれども、それらはいずれも分かりやすいなと思います。概念の理解とか、原理の理解を助けるような図表も比較的よいのではないかと思います。

それから大日本は、東京書籍はちょっとサイズが大きいわけですがけれども、サイズのちょうどよくて、それから同じく実験に関しては流れも分かりやすいですし、図表も分かりやすいと思います。それから単元末に問題がまとまっていて、この問題は各単元の理解の助けになるのではないかと思います。ただ、やや字が小さくて、ちょっと詰まった感じがするような、見た感じの印象ですがけれども、そういうふうに思いました。

それから啓林館ですがけれども、探究的なアプローチというのが非常に明確に出ていて、サイエンスというのは本来そういうことが大事だという信念を感じます。説明の図はかなり凝ったつくりになっているように印象としては受けます。ただ、中学生の理解のためのものとしては、もう少し2次元的でシンプルな図でもよかったのかなと思います。啓林館の非常にいいところは気象の部分で、この部分は分かりやすく、入っている図の構成も大変適切だと思います。ただ、やや難易度が高いという印象があります。

難易度の点も考えると、私は東京書籍が大日本図書か、いずれかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 理科の目標の一つで、自然の事物とか現象に対する関心や理解を深めるというのがあるわけですが、言うまでもないことですが、各者たくさんの写真や図表を使って、生徒に関心とか理解を深めるということできいろいろ工夫されているなと思いました。

5者あるわけですが、各単元の進め方、それから各章の締め方と申しますか、終わりということにちょっと注目して見て、今の段階では東京書籍か啓林館かなと思っております。

東京書籍ですが、判型がA4で初め多少違和感を持たないではなかったのですが、見ていくうちにそれなりに収まりよくまとまっていると思うようになりました。ただ、やはり文字と申しますか、文章が多い印象を受けました。進め方ですが、「問題発見 レッツスタート」、それから「調べ方を考えよう」から始まって、「解決方法を考えよう」とか、「課題に対する結論を表現しよう」、「学びをいかして考えよう」ということで、学習の進め方、あるいは見方と申しますか、それが分かりやすくなっているのかなと思います。各単元の終わりは、「学習内容の整理」、それから「確かめと応用」、そして「確かめと応用の活用編」というのがついていまして、工夫されているのかなと思います。

啓林館ですが、多少文字が小さい印象は受けるのですが、本文と図表のバランスはよいのではないかと思います。学習の進め方は、「考えてみよう」「話し合ってみよう」とか、「思い出してみよう」とか、「試してみよう」ということで、生徒にいろいろ促している。そして各章、各単元の終わりですが、「学習のまとめ」があり、「力だめし」があり、「みんなで探Qクラブ」というのがあって、あと「ひろがる世界」ということでいろいろな学びにつなげていこうとしているということがうかがえると思いました。

ということで、東京書籍か啓林館かなと思っております。

以上です。

教育長 では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 小林委員が御指摘になられた本の形ということで、東京書籍がちょっと変わっているのですが、開いてみると誠に見やすいと申しますか、視線は縦に動かせばいいので見やすい。ほかのものは横に動かしたり縦に動かしたりしなければいけないので、東京書籍は見やすいのですけれども、扱いということで多分、アンケートにお答えになられた方々は気にされたのかなと思いました。

私は啓林館で、確かに難易度が高いということになるのかもしれませんが、このページで言いたいという、これを勉強してほしいということが、非常に上手にというか、鮮やかに示されていて、生徒さんに伝わるように思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

理科については、観察ですとか実験の手順ですとか、方法が分かりやすく記載されているか、また、中学になると理科嫌いの子が増える傾向があるのですけれども、理科についての興味や関心を引く紙面構成になっているかという点を中心に、各者の教科書を比較してみました。

その中で、私が大変感心したのは啓林館と大日本図書でした。啓林館については先ほど来先生方が御説明されているように、紙面構成が見やすい中で、高校への物理ですとか化学への導入も紹介されておりまして、若干難しいという御指摘もありましたけど、理科というジャンルの流れを捉えやすいのではないかなと思いました。また、あくまでも参考資料扱いですけれども、デジタルコンテンツも充実していきまして、実験器具の使い方だとか、そういうのも分かりやすく見られる形になっております。

また、大日本図書は、各単元の冒頭に小学校を含めてこれまで学んだことすとか、これから学ぶことが分かりやすく示されておりまして、そういった意味ではまず最初にその学んだことをおさらいした上で、新しい学びに入っていくという形で、つながりやすいのかなと思いましたし、教科書選定調査会の報告にもありましたように、伊豆半島の大地の様子が題材にされておりまして、下田移動教室の自然観察の際に、その前に理科でこれを学ぶことによって導入できるのかなと思いました。

先ほど啓林館のところで言い忘れましたが、啓林館では3年の295ページに、荒川区の中学校防災部の活動が写真入りで紹介されているので、生徒たちも身近に感じられるのではないかなと思った次第です。

以上、理科について先生方の御意見をお聞きしましたが、意見を総括すると東京書籍、大日本図書、啓林館の3者を推す先生方が多かったように思います。恐縮ですけど、1者に絞っていただいて、どの会社を最も推薦するか、挙手により決定をさせていただきたいと思っております。

それでは、東京書籍を推薦される方。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

大日本図書を推薦される方。

〔挙手〕

教育長 1名。

啓林館を推薦される方。

〔挙手〕

教育長 3名ということで、啓林館を採択することと決定いたします。

続きまして、教科「音楽」、種目「一般」の審議に移ります。

初めに指導室長から説明があります。

指導室長 「中学音楽」、教育出版でございます。内容につきましては、ミュージカルやポピュラー音楽の教材が豊富でございます。学習活動につきましては、教材に「問い」が設けてあり、話し合いを進める手だてがございます。

「中学生の音楽」、教育芸術社でございます。内容につきましては、新曲が親しみのある曲で、難易度も内容の分野も豊富に構成がされております。学習活動につきましては、自分の考えを整理させながら学習を進め、主体的・対話的に学びを实践できる表記になってございます。

以上でございます。

教育長 それでは「音楽」、「一般」について御審議をお願いします。

小林委員。

小林委員 音楽につきましては、音楽を楽しむことができるという点を中心として考えさせていただきました。

2者あるのですけれども、教育芸術社から見ていきますと、比較的平易な内容で、基礎的な内容も充実させつつ、音楽を楽しむことができる教科書です。あまり専門的になりすぎないような工夫がされておまして、例えば教育出版と教育芸術社を比べますと、ともにビバルディの「春」、あるいはモーツァルトの「魔王」ですが、両者ともに取り上げています。ただ、教育芸術社の方がどちらかというと基礎的な内容で、教育出版は分析的な内容になっているかと思いました。

2点目としましては、教育芸術社ですが、資料としてつけられているQRコードを読み取るデジタルコンテンツについてですが、演奏者のホームページ等の情報が入っております。

教育出版も非常にいい教科書で、教科書についているQRコードで読み取るデジタルコンテンツも充実していると思いました。

2者を比べますと、比較的平易な内容で音楽を楽しむことができるという点で、教育芸術社がいいと考えました。

以上です。

教育長 そのほかいかがでしょうか。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 私は音楽に関しては、どちらの発行者もよく工夫されていて、どちらであっても学びに関しては問題ないかなと思いました。そういう上で教育芸術社の方が全体としてシンプルなつくりになっていて、ちょっと発展的な部分は右側のページに時々、例えば1年生の1

9ページの曲の構成だとか、同じく1年生の51ページに曲想の変化だとか、右のページに時々こういうふうにコラム的に挟み込んであると。それ以外のところは比較的シンプルにできているということで、音楽も実際に授業の時間は限られていますので、そこを考慮すると教育芸術社の方がいいかなと思いました。

教育長 では、長島委員、お願いします。

長島委員 「学習指導要領」に応える形で、2者とも歌唱とか表現とか鑑賞などに工夫を凝らした教材、題材を示しているのだと思いました。音楽著作権に関するページもあって感心しました。取り上げられている歌唱ですね、曲数は教育芸術社の方が若干多いように見えました。はっきり言って両者甲乙つけがたいというのが正直なところなのですが、現在、教育芸術社を使用しているということから、教育芸術社を推したいなと思っております。

教育長 繁田委員、お願いします。

繁田委員 私もどちらが大変迷いましたけれども、音楽を身近に感じるという側面をより強調するのか、それとも芸術の一つであるという部分を強調するのかというところが少し違うように感じて、私は教育芸術社のちょっと芸術的な部分も忘れないでねということが気に入りました。教育芸術社の方です。

教育長 教育芸術社を推す先生方が多いですけれども、私も教育芸術社に手を挙げさせていただきたいと思います。

昨年、小学校の教科書採択をした際にも申し上げたのですが、各学年とも「君が代」を最終ページに掲載しておりまして、そういった意味では国歌への親しみですとか、畏敬の念を子どもたちにきちんと教えさせる構成になっておりますし、先ほど長島委員からの御発言にもありましたけど、継続、そしてまた小学校からの継続ということも踏まえて、教育芸術社を2者のどちらかといえば推したいと思います。

それでは、「音楽」、「一般」については、教育芸術社とさせていただくことで御異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認め、教育芸術社といたします。

続きまして、「音楽」、「器楽合奏」について説明をお願いします。

指導室長 「中学器楽」、教育出版でございます。内容につきましては、気鳴楽器系、撥弦楽器系の流れで作られております。学習活動につきましては、グループで話し合いながら活動に取り組むような内容になっております。

「中学生の音楽」、教育芸術社でございます。内容につきましては、和楽器以外の楽器、和楽器の流れで作られております。学習活動につきましては、つまずきやすい点についてQ

Aがあり、問題解決の取組ができるようになっております。

以上でございます。

教育長 それでは「器楽合奏」についての審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 器楽につきましては、先ほどの音楽と一緒の教科書の方が指導しやすいと思います。

その意味で教育芸術社の方がいいのではないかと、推薦したいと思います。

教育芸術社は内容の親しみやすさがありますので、その意味でも教育芸術社の方がいいと考えます。

教育長 では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 いずれでも、これも問題ないと思いますけれども、選定調査会の調査研究報告にありますように、構成がちょっと違って、教育出版の方は和楽器と、それからその他の楽器が順番がまじって出てきていて、それで教育芸術社の方は、先にリコーダーとギターがあって、その後和楽器が出てくると、こういう構成になっている。もちろん先生方がページを飛ばしてやればどちらも使えるわけですが、何か実際の現場の感じからすると、恐らくリコーダー、ギターみたいなものと、その他が順番としては分かれているほうがすっきりとしているかなと思いますので、こちらの教育芸術社の方を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 東京都の資料ですと、取り上げられている曲数は教育出版の方が多いということになるわけですが、音楽一般と合わせるほうがやはりいいと思ひまして、教育芸術社かなと思います。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 音楽の教科書と同じということと、もう一つは楽器のいわゆる操作というか、演奏と申しますか、がちょっと丁寧な印象を受けた教育芸術社の方がより楽器の演奏を楽しめるかなと思ひました。

以上です。

教育長 私も、若干繁田委員の御発言とかぶるかもしれませんが、それぞれ各者とも特色があって、見やすいというか、演奏の際に参考になる記述が書かれているなと思ったのですが、とりわけ和楽器、琴について注目して比較してみたのですが、教育芸術社の方が、琴の説明が丁寧であって、その分、教育出版の方はQRコードで実際に模範演奏を見ながら、聞きながら練習ができるという形になって、紙面を重視するのか、それとも実際の

演奏場면을重視するののかという形になりますけれども、まずは教科書できちんと学ばせることが重要ではないかなと思ひまして、教育芸術社を推したいと思ひます。

それでは、これも教育芸術社を推す方ばかりですけれども、中学生の「音楽」、「器楽合奏」につきましては、教育芸術社とさせていただくことで御異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それではそのように決定いたします。

続きまして、教科「美術」、種目「美術」について事務局から説明をお願いします。

指導室長 「美術」、開隆堂でございます。内容につきましては、新学習指導要領の内容を、全題材を通じて総合的に育成する内容になっており、1冊ごと学習の展開に沿った流れで構成されております。学習活動につきましては、各項目に「学習のポイント」が示され、話し合い活動を促すよう工夫されております。

「美術」、光村図書でございます。内容につきましては、発想・技能・鑑賞を系統的に掲載、3学期制、2学期制どちらにも対応できるよう題材数、領域のバランスが工夫されております。学習活動につきましては、各題材の最初に鑑賞図版、対話が生まれるような問いが掲載され、言語活動を進めやすくなっております。

「美術」、日本文教出版でございます。内容につきましては、新学習指導要領に基づいた題材配列と系統性を踏まえ、3年間の発達段階に即した3冊編成になっております。学習活動につきましては、各課題ごとに「視点」というコーナーを設けており、主体的・対話的な学びへの工夫がございます。

以上でございます。

教育長 それでは、美術につきまして御審議をお願いします。

小林委員。

小林委員 3者なのですが、非常に迷いました。とてもそれぞれ優れた教科書だと思ひました。

まず日本文教出版ですが、作品の数が多く、特に生徒の作品が多く、これは東京都の教科書調査研究資料も指摘していることです。美術においては、優れた作品に触れて感動すると同時に、生徒の優れた作品を紹介して、生徒に自分でも作ってみようという意欲を喚起することが重要です。その点、日本文教出版の教科書はバランスが取れていると考えました。また日本文教出版ですが、3分冊になっておりまして、中学生の成長、発展を考えた、そういった構成になっている点が非常にいいと思ひました。

開隆堂に関しましては、教材としてQRコードで読み取るデジタルコンテンツが充実している、美術館等へのリンクが充実しているということを挙げたいと思ひます。

それと光村図書出版ですが、どちらかというとな美術と国語や歴史との統合を目指している

ようなイメージがありまして、歴史好き、あるいは美術鑑賞をするのが好きな学生にとってみると非常にいいように思われました。最初のページを開くと谷川俊太郎氏の詩があり、この部分のQRコードを読み取ると、デジタルコンテンツとして朗読があるという、そのような工夫がされていまして、この点も国語の好きな学生にとってみるといいのかなと思いました。ただし東京都の資料によりますと、光村はデジタル教科書はないと記載されております。

以上から総合的に判断しまして、日本文教出版がいいと判断いたしました。よろしくお願いいたします。

教育長 それでは坂田委員、お願いします。

坂田委員 選定とは関係ないのですが、美術に関して不思議に感じた点は、普通分冊になっている場合、教科書の表紙のテイストが似通っているというか、例えば教科書をまぜたときに、1年生、2年生、3年生とあったときに、どれがどの出版社か分かるのですけれども、美術は教科書、表紙のテイストが1年生と2年生で全然違って、まぜても分からない、そういうところが面白いなと思いました。

本題ですけれども、3者を比較すると私は日本文教出版と、その他の2者、光村図書出版と開隆堂で差があるのではないかと考えます。どういうことかといいますと、日本文教出版の方は比較的親しみやすいことを重視していて、光村図書と開隆堂はそれよりもやはり絵や内容が多くて、難易度が高いという印象があります。それでどちらを取るかということで検討いたしました。

日本文教出版の方は、1年生のころはかなりゆったりとした感じのつくりになっていて、カラフルで非常に興味を引くような内容になっています。1年生から2、3年生の上下となるに従って、分析的になっています。2年生、3年生の下巻の方を見ると、非常に魅力的な内容のものが多く並んでいるなと思います。

これは美術ですので、体系的になっている必要が必ずしもなくて、多分先生方がこういったものを教材として、参考として開きながら使っていくということを考えると、日本文教出版が提供されている題材は非常に優れたものが多いと思いました。

一方で光村図書出版の方は、1年生のときからやや文字が多くて、内容が多くて、先ほど申し上げたように難易度が高い印象があります。

開隆堂についても同じでして、例えば1年生の24ページに、「伊藤若冲の世界」というのがありますが、非常に内容的にはいいのですけれども、このタイミングで出てきますので、結構早いうちから難しめの題材を生徒に提供する形になっていると考えます。こういうふうになっていまして、これまでの教育の流れも踏まえて総合的に考えると、前者の方の日本文教出版がいいのではないかと考えました。

教育長 では、長島委員、お願いします。

長島委員 開隆堂につきましては、図版の色が非常に鮮やかかなと思いました。

光村図書出版ですが、文章と図版のバランスがいいということは、別の表現をするとちょっと文字が多すぎるのかもしれませんが。

それと開隆堂と光村は2冊で構成されていますが、光村の2冊目の方がちょっとページ数が若干少ないのかなという感じを受けました。

それから日本文教出版のみ3冊になっております。その3冊ということについては、3冊か2冊ということについて、現在、日本文教出版を使っていると思いますので、それがもし、2冊の方に変わった場合、何か支障があるのかどうなのか、そこがちょっと気になりました。2冊でもいいのではないかと思ったりもします。

それから光村につきましては、小林委員がおっしゃったように、東京都の資料でデジタル教科書の発行予定がないというところがちょっと気になって、デジタルの教科書でいろいろな場面、図表といいますが、絵画とかを示すというのは非常に有効な手法かと思い、光村はその予定がないということはちょっと気になっております。

ということを考え合わせて、日本文教出版か開隆堂かという状況です。

教育長 繁田委員、お願いします。

繁田委員 開隆堂は、人の姿を模しているページが、とても伝わるものがあって感動しました。

それから光村図書は、版画のところ紙を変えていらっしゃる。やっぱり表現することをとても大切にしていращやるのが印象的でした。

その一方で、日本文教出版が、生活の中での表現、もちろん芸術も作品も原寸か何か大判で見せてくださるのですが、生活の中での表現ということを重視しているので、そういう側面を生徒たちが学ぶことは大事なのかな。自分がそういう仕事に就く就かないは別にして、身近なものとして、一つの技術として身につけていくということもあっていいのかなと思いましたので、最終的には迷って日本文教出版を推します。

教育長 ありがとうございます。

私も今までの先生方からお話ございましたように、3者の中で比較するならば、日本文教出版が3冊構成になっています。美術の先生は、必ずしも3年間を通して1から順番に教えるという形ではありません。生徒たちの興味・関心、学校行事等も勘案しながら、教育課程での美術の時間を、何を教えるかを決めていくという形になろうかと思います。そういった意味では、教材も多く取り上げやすいということから、3分冊構成の日本文教出版を推したいと思います。

以上、美術について御意見をお聞きしましたが、開隆堂、若しくは日本文教出版を推す方

が多くいらっしゃいました。挙手により決定をさせていただきたいと思います。

教科「美術」、種目「美術」について、開隆堂の教科書が適切ではないかと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 では、次に日本文教出版の教科書が適切ではないかと思われる方。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。では、日本文教出版に決定いたします。

続きまして、教科「保健体育」、種目「保健体育」の説明をお願いします。

指導室長 「新しい保健体育」、東京書籍でございます。表現につきましては、文章が理解しやすい表現で、資料は分かりやすいものとなっております。学習活動につきましては、課題の提示、課題解決の段階が具体的に示されております。

「中学校保健体育」、大日本図書でございます。表現につきましては、教科書の使い方と1単位時間の学習の流れが示され、見通しをもって学習に取り組めるものとなっております。学習活動につきましては、章ごとに見方・考え方を働かせて、思考を深め、学びを生かすことができるようになっております。

「保健体育」、大修館書店でございます。内容につきましては、知識的な内容よりも考えさせる内容となっております。表現につきましては、章の初めには見開きで写真を中心とした学習内容を紹介し、写真に吹き出しを入れるなど、理解しやすいように工夫しております。

「中学保健体育」、学研教育みらいでございます。内容につきましては、発展・補充教材も適度に記載されてございます。学習活動につきましては、探究・考える・調べる・まとめる・深めるなどのポイントが明確にされていて、主体的な学びを促す構成となっております。

以上でございます。

教育長 それでは「保健体育」につきまして、審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 保健体育ですが、基本的なことをきちんと身に付けることができるかどうかを判断の基準として選びました。その中で、大日本図書か学研みらいがいいと思いました。

まず大日本ですが、「つかもう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」と、段階的に学ぶ工夫がされているというのが1点目としてあります。

2点目、大日本ですが、具体的で、かつ実践的な内容が盛り込まれています。例えば喫煙、飲酒、薬物乱用という項目がありまして、その中でたばこ、酒、薬物を誘われたときの断り方の練習をしようといったのがあって、断り方の例までであるといった工夫がされております。あるいはストレスの対処、具体的に腹式呼吸の方法が書かれていまして、そのような基本的

なことをきちんと身に付けるという点から考えると、非常に優れていると思いました。

2者目ですが、学研みらいに関しましては、「課題をつかむ」「調べる」「まとめる・深める」というポイントが示されていて、生徒が主体的に学ぶ方向性が示されています。

2者を比べると、総合的には実践的な内容が充実しているということから、大日本図書がよいと考えました。

以上です。

教育長 では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 私も大日本図書がよいと思いました。今、小林委員がおっしゃったように、実践的な内容が多いというか、全般にそういうことを意識して作られているというところと、それからカラフルで内容が厳選されていて、小さい字も少ないですし、全体として読みやすいところがあると思います。

また、冒頭オリンピックに関する特集というのがかなり充実していたりとか、そういったことがうかがえます。今の時期重要なのは、教科書が作られたのは新型コロナウイルス感染症の前ですので、それが載っていないのはもちろんなのですが、この大日本を推薦するに当たって132ページから感染症について取り上げられていますので、そのところを読んで、いいかどうかということを確認したのですけれども、新型コロナウイルスのことを書いているわけではありませんが、感染症に関するきちんとした知識を子どもたちに提供する上では十分な内容になっているのではないかと判断いたしました。

以上から、大日本を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 東京書籍につきましては、図表が多く文章による情報がちょっと少ないのかなという印象を受けました。また図表の色合いがちょっとすっきりしないかなという印象です。

それに比べて大日本図書は、写真や図表の色合いがくっきりしていて見やすいということと、見開きになっていて、左側のページが文章で右側のページが図表ということで、見やすいのかなと思いました。

それから大修館、文章と図表のバランスがよいのかなということと、あと情報量が多いという印象です。使用されている図表も適切なのではということです。

学研ですが、各ページ文字が多いという印象を受けました。

坂田委員もおっしゃった感染症について4者見比べてみたのですが、ページのにはというか、情動的には大修館が一番多いのかなと思ひまして、大修館が大日本図書かと現在、思っております。

教育長 ありがとうございます。

では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 私もやっぱり時節柄といいますが、新型コロナのことがあるので、参考に感染症のところを見せていただいたら、それぞれちょっとニュアンスが違う、食中毒を一番意識しているなどが、空気感染だとか、それこそコロナの接触感染と飛沫感染だというのが、それぞれ違って、それは別に予測できたことではないので、今後、多分バランスよくいろいろな感染症、いろいろなウイルスの種類を考慮するのだろうなと思いました。

最終的に私が判断をしたときにこだわったのは、心の発達、社会性の問題をどう扱っているのかというところで、やっぱり知識としてというのではなくて、我がこととして、自分ごととして感じられるような内容というところで、大日本と学研でした。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

私も保健体育の教科書を見比べる中で、見開きで説明が見やすく書かれて、生徒たちがその単元の課題ですとか、あるいはまたその課題を踏まえて話合いがしやすい構成が、どの発行者が一番優れているかなと思った次第です。

そういった意味では、大日本図書ではそれぞれの単元ごとに学習のねらい、説明、話合い、理解の確認、応用ということで、見開き2ページの中で生徒たちが正しく理解できるようになっていますし、特に学習のねらいでは学ぶべきポイントが最初に提示されているので分かりやすいのかなと思います。加えて欄外のミニ知識でさらに理解を深められる、そういった情報提供もあり、他者にもあるのですけれども、比較検討する中で紙面構成の見やすさですとか、資料の豊富さなどを勘案し、大日本図書を推薦したいと思っています。

それでは、「保健体育」については、4者しかございませんので、順に者名を挙げさせていただきますので、最もふさわしいと思われる発行者に挙手をお願いしたいと思います。

東京書籍がふさわしいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃらないですね。

大日本図書がふさわしいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。では大日本図書に決定いたします。

続きまして「技術家庭」、「技術」分野について、事務局から説明をお願いします。

指導室長 「新しい技術・家庭 技術分野」、東京書籍でございます。内容につきましては、材料と加工66ページ、生物育成46ページ、エネルギー56ページ、情報62ページであ

りまして、生物育成が他者より多くなってございます。学習活動につきましては、「技術の匠」コーナーや問題解決カードなどにより、主体的な学習活動を進める工夫がされております。

「New技術・家庭 技術分野」、教育図書でございます。内容につきましては、材料と加工が66ページ、生物育成が40ページ、エネルギーが62ページ、情報が82ページであり、情報が他者より多くなってございます。学習活動につきましては、先輩からのメッセージコーナーや「技ビト」、「スゴ技」のコーナーなどにより、主体的な学習活動を進める工夫がされております。

「技術・家庭 技術分野」、開隆堂でございます。内容につきましては、材料と加工が72ページ、生物育成が44ページ、エネルギーが52ページ、情報が70ページであり、材料と加工が他者より多くなってございます。学習活動につきましては、問題解決的な学習活動のページが充実しております。

以上でございます。

教育長 それでは「技術分野」につきましての審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 技術分野ですが、特に情報の部分、情報の技術のところに注目しながら読ませていただきました。ただ、各者ともに感じるものがあつたのですが、情報のデジタル化の意義であるとか、情報をデジタル化することによってどのように新しい世界が広がったのかという点に関して、もうちょっと記述があるとよかつたのかなという印象を持ちました。それと情報モラルに関しては、かなり各者ともに細かい内容が書かれていたのですが、もう少しネット情報のフェアユースであるとか、そういったことが書かれていてもいいのかなという印象を持ちました。その上で、この3者を比べまして、東京書籍、また開隆堂がいいかなという印象を持ちました。

東京書籍に関しては、内容は詳細ですが、見やすく読みやすいという点で優れていると思いました。また東京書籍は、具体的な学習活動を進める工夫がされているという点を指摘しておきたいと思います。

開隆堂に関しましては、かなり道具の使い方とか材料加工の動作のポイントであるとか、そういった点が丁寧に紹介されているという印象を持ちました。

2者の中では東京書籍がいいかという印象を持ちました。

以上です。

教育長 それでは、坂田委員、お願いします。

坂田委員 私も印象としては今、小林先生がおっしゃつたとおりです。情報のところを比較し

てみましたけれども、先ほど御紹介のあったページ数だけではちょっと判断はできなくて、紙面なども考えると、東京書籍に関して今、重要になってきている情報の部分は、子どもたちにとって分かりやすい構成と内容になっているのではないかと思います。

情報で各者比較していてなるほどなと思ったのは、安全とかセキュリティ、それからモラルというのはあるのですが、すべての教科書にデータの量というのが出てくるのですね。今、実は現下において結構重要なのはデータの量で、みんなが動画のような情報量の大きなデータを通信すると、ほかの人に影響を与えてしまうことが現実に見えています。例えばピクセルとか画素数とか、そういうものも取り上げていて、予期したわけではないですけども、そういったことにも対応できているようになってきていると。余談ですが、全体の分かりやすさを考えて東京書籍を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 技術分野の教科書ということで、開いてみて植物とか動物とかが出てきて、一瞬「あれっ」と思ったのですが、学習指導要領を見ると生物の育成の技術というのがあるのだということを再認識させられたということです。

先生方からもありましたけれども、プログラミングとか情報のところを見比べたり、それから文章と図表のバランスといいますか、そういったところも見させてもらい、教育図書は文章と図のバランスがちょっと良くないかなという感じを受けました。

東京書籍は、情報量が多いのかなという印象です。

開隆堂は非常に見やすくなっているかと思います。

総合的に判断ということになります、東京書籍、次に開隆堂となります。

以上です。

教育長 では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 私も先生方と同様に、情報量の面と、それから作業をしながら開いたりするということも踏まえて、東京書籍と開隆堂がやっぱりいい、好ましい印象を受けたのですが、東京書籍の方は割と落ちついた色合いで、これより開隆堂の方が極彩色ではないのですけれども、中学生には鮮やかなほうがいいのかなと思いました。老化現象がどういうふうに影響するか分からないのですが、私は個人的には東京書籍ですけども、これで若い人にいいのかなというのはよく分かりませんでした。すみません、失礼しました。

教育長 意見、様々頂きました。

私も東京書籍が、先生方と同じように情報の分野について主に比較検討したのですけれども、内容も詳細にわたっておりますし、附属のプログラミング手帳が今後プログラミング教

育を推進していく上でも役立つのではないかと思います、東京書籍を推したいと思います。

それでは、「技術家庭」、「技術分野」について、採決に移ります。

東京書籍を推薦される方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 では5人全員ということで、「技術分野」については東京書籍に決定いたしました。

続きまして、「家庭分野」について説明をお願いします。

指導室長 「新しい技術・家庭 家庭分野」、東京書籍でございます。内容につきましては、学習の意義や大切さが伝わる工夫がされております。学習活動につきましては、活動例の中で、グループで対話的に進める活動が取り上げられております。

「New技術・家庭 家庭分野」、教育図書でございます。内容につきましては、知識と教養を身につける工夫がございます。学習活動につきましては、各章の終わりに生活の課題と実践や振り返りが掲載され、主体的・対話的で深い学びに寄与する構成となっております。

「技術・家庭 家庭分野」、開隆堂でございます。内容につきましては、学習の意義や大切さ、生徒の関心や実生活を学びにつなげる工夫がされております。学習活動につきましては、他教科との関連が分かりやすく構成されております。

以上でございます。

教育長 それでは「家庭分野」についての審議をお願いいたします。

小林委員。

小林委員 家庭分野ですが、3者あるのですが、教科書として見たときの完成度としては、開隆堂か東京書籍がいいのではないかと思います。

その2者の中で比べさせていただきますと、東京書籍の方が内容の情報量が多いにもかかわらず、分かりやすい構成になっていました。また東京書籍ですが、衣・食・住が充実しておりまして、この辺りの基本的な技術を身につけるとするのが非常に重要ですので、その意味からも東京書籍を推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 私も東京書籍は読んだ感じ最も親しみやすい教科書になっているのではないかと思います。また、この家庭も授業時間数が限られていますので、最初から最後まで通してやるということよりは、授業で使えるような課題とか題材が多いかどうかというのが大事だと思いますけれども、そういう意味では授業で使えるような課題の選択肢が非常にたくさんあると思いました。

教育図書は、配色はなかなかよくて、いい感じではあるのです。構成も分かりやすく、内容は充実しているのですけれども、やや多い感じがします。

それから開隆堂は、全般に家庭と社会の関係というのですか、社会との関係を重視して各章立てられているような感じがします。例えば私、初めてこの言葉を聞いたのですが、「持続可能な家庭生活」、最近「持続可能」というのがキーワードなのですが、一番最初のAの家庭生活の5番ですね。「持続可能な家庭生活」という言葉があって、社会との関係をすごく意識されているところが優れているところだと思います。

そういうことで、どの発行者もいいのですけれども、授業の使いやすさということを考えると東京書籍がいいのではないかと考えました。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 技術分野の教科書と似たような印象を受けまして、東京書籍については文章と図表が多くて、情報量が多いという印象を受けました。

教育図書は、ちょっとバランスがよくないのかなという感じです。

開隆堂は、非常に見やすくなっていると思います。

先ほど技術分野の教科書で繁田委員がおっしゃられた、色合いについては気にはなりましたが、それほど東京書籍と開隆堂で大きな違いはないのかなという感じもします。

あと、さっきいろいろな料理のレシピ、各者きれいなのを示していて、何かやってみようという気になるのかなと思いました。

ということで、東京書籍、技術分野に合わせて、ここでいえば東京書籍かなという感じがします。

教育長 ありがとうございます。

では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 技術と同じ印象を持ちました。ぱっと見は開隆堂さんの方が目を引きました。内容に集中できたのが東京書籍さんでした。東京書籍の方を推させていただきます。

教育長 ありがとうございます。

最後に高梨ですけれども、家庭分野、今、技術家庭の家庭分野で教えるのかなと思ったのですが、災害対策という項目がありまして、そこを3者比較してみました。東京書籍の記述が最も丁寧に書かれていまして、荒川区として現在、特に力を入れている通電火災予防の注意についても、大きく触れている点が評価できると思いました。加えて、後ろの方になりますけれども、「これからの家族と地域」の単元で、荒川区の中学校防災部が毎年交流している釜石東中学校の防災活動の様子が取り上げられておりまして、そういった意味では現在、

交流を長年にわたって進めている双方の活動がお互いに参考になると思った次第です。

それでは、「技術家庭」、「家庭分野」についての決を採りたいと思います。

東京書籍がふさわしいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 5人全員ということで、「技術家庭」、「家庭分野」については東京書籍を採択することといたします。

続きまして、「外国語」、種目「英語」について、事務局から説明をお願いします。

指導室長 「NEW HORIZON」、東京書籍でございます。内容につきましては、「Grammar for Communication」でそのUnitで学習した文法が整理されております。表現につきましては、SDGsに関わる主な教材を10点取り扱っているなど、現代的な学習内容を掲載しております。使用上の便宜につきましては、A4判の教科用図書となっております。

「SUNSHINE」、開隆堂でございます。内容につきましては、各Program冒頭に到達目標が示されております。表現につきましては、SDGsに係る主な教材を11点取り扱っております。使用上の便宜につきましては、A B判の教科用図書となっております。

「NEW CROWN」、三省堂でございます。内容につきましては、各Lesson冒頭にその単元の大まかな内容を予想できる英文がございます。表現につきましては、SDGsに関わる主な教材を7点取り扱っております。使用上の便宜につきましては、A B判の教科用図書となっております。

「ONE WORLD」、教育出版でございます。内容につきましては、Active Plusで対話や発表のための例文がまとめられております。表現につきましては、SDGsに関わる主な教材を9点扱っております。使用上の便宜につきましては、A B判の教科用図書となっております。

「Here We Go!」、光村図書出版でございます。内容につきましては、巻末のStory Retellingで各Lessonの内容が絵でまとめられており、話す・発表する活動に活用できるものでございます。表現につきましては、SDGsに関わる主な教材を8点取り扱っております。使用上の便宜につきましては、A B判の教科用図書となっております。

「BLUE SKY」、啓林館でございます。内容につきましては、巻末のWord BoxにカテゴリーやUnit等の教材別に学習した単語や熟語がまとめられております。表現につきましては、SDGsに関わる主な教材を6点扱っております。使用上の便宜につきましては、A B判の教科用図書となっております。

以上でございます。

教育長 それでは「英語」につきまして、御審議をお願いいたします。

小林委員、どうぞ。

小林委員 英語についてですが、最後の最後まで迷いまして、3者をここでは挙げておきたいと思えます。開隆堂、三省堂、啓林館の3者です。

まず開隆堂「SUNSHINE」ですが、1点目としては非常に内容が充実していることがあります。3年でマララ・ユスフザイさんの国連でのスピーチなどがありますし、「ばばあちゃん」のお話、そり遊びなどもありまして、楽しい内容が入っているということです。

開隆堂の2点目として、アクティビティが非常に充実している点があります。

3点目としては、文法もシンプルにまとめてあるというのがあります。

そして三省堂、現行で使われている三省堂ですが、非常に題材がいいというのがありまして、3年生で「The Story of Sadako」という原爆関係のものが入っておりますし、マーティン・ルーサー・キング牧師の「I Have a Dream」がありまして、これは極めて重要な教材であると思えます。

三省堂、ただ、少し気になる点がありまして、一つの単元に文法事項が二つ入っているんですね。例えば1年生の最初のところなのですが、be動詞と一般動詞と二つ入っておりまして、この辺りかなり教える技量も必要とされてくるのかなという気がいたします。生徒が少し混乱しないかなという、そのような危惧があります。

それと3者目ですが、啓林館「BLUE SKY」です。これは良さとしては非常にシンプルというのがありまして、量としても盛り込みすぎではないので、むしろ現場としては混乱しないのではないかなというような、そのような気がいたします。

啓林館で「BLUE SKY」ですが、2点目としましては文法事項をきちんと扱っている点です。現行の英語教育の流れの中で、話すことが重視されているのですが、確かに話すことは重要なのですが、話すためにはまず英文をインプットすることが必要で、そうすると読むことが重要となります。読むためには基本的な文法を理解していることが重要ですので、文法をきちんと理解することが重要ということで、この点を考えると啓林館もお薦めではないかなと思いました。

現在のところでは、3者がお薦めではないかと考えております。先生方の議論をお伺いしながら判断したいと思っております。よろしくをお願いいたします。

教育長 では、坂田委員、お願いします。

坂田委員 今回は英語の選択が一番難しいと私は思っております。4技能の学習が本格的に入ったことで、それを我々がどう捉えるかということが迫られているものと考えます。

それで、まず三省堂の「NEW CROWN」ですけれども、これについては本格的な4技能対応型と私は感じるのですが、4技能について各2ページ単位の、それぐらいの細かい区切りでもバランスよく学んでいくというか、そういう構成になっています。

課題は、教科書としてはやや複雑な感じになっていて、そういったものを使いこなせるかどうかというところではないかと思います。

それでアンケートを丁寧に見てみたのですけれども、教員の先生方が書かれたのだろうなと思うアンケートにおいては、この「NEW CROWN」については明確に意見が分かれている状況であることがよく分かりました。

内容的には、出てくる文章とか、それから図表とか、そういったものを見ると例えば1年生の65ページには文房具か何かがあって、サマーセールのチラシが出てきたりとか、子どもたちの日頃の生活との関係で興味を引くような内容がよく工夫されていると思います。

次に、東京書籍です。ちょっと判が大きいのですが、文法については分かりやすい説明になっていると思います。例えば1年生の118ページとか119ページですけれども、肯定文、否定文、疑問文についてそれぞれ比較できるように、ぱっと見て比較できるように、しかも色をつける形で一覧で見られるようにしていて、肯定文、否定文、疑問文でどう違うのということについては、ここまで丁寧に示しているというのはずばらしいと思います。

それから3年生になると、50ワードから200ワードぐらいの文章を読ませることを重視していて、3年生ぐらいになるとやっぱり確かにどんどんいい英語を読んでいくということが必要になると思いますので、そういったものにも対応していると思います。

それから最後、3者目ですけれども、開隆堂です。開隆堂も文法については分かりやすい図解というのが非常に配慮されていると思います。例えば1年生の27ページですか、ここも先ほどと同じく肯定・否定・疑問文なのですけれども、これも三つを並列させて、色をつけて、どういうふうに違うのかということが鳥瞰的に一目で理解できるようになっていると。そういったところは優れていると思います。

それから開隆堂の特徴は、「Think」というのがありますが、能動的に読んで考えさせる、そういったことをポリシーとして重視されているのだろうなと思います。3年生になると文章を読ませた上でいろいろ考えさせるような構成になっていますので、それが一層顕著になっていると思います。

私としては、三省堂が最後に挙げた開隆堂、いずれかがいいのではないかと考えました。教育長 では、長島委員、お願いします。

長島委員 「学習指導要領」で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによるコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるとなっているわけですが、そのことを各者がど

ういうふうを受けとめて、どういうふう構成しているかという観点から見させてもらって、東京書籍か三省堂かと思っております。

東京書籍の「NEW HORIZON」ですが、判型が他者に比べると細長くて、若干の違和感がないわけではないですが、各ページのまとまりという点ではよいのではと思いました。各Unitで導入があって、次に文法に関することが出て、対話形式の文があって、その後にある程度まとまった文章を読んで考えたり表現したりというつくりになっていて、生徒は英文を聞いたり読んだりした後に、課題に答えるということが求められていて、その課題は選びましょうとか、次の質問に答えましょうとか、細かく示されていて、生徒からすると私は取り組みやすいのではないかと思います。

それから三省堂「NEW CROWN」ですが、初めにやや簡単な文章があって、聞くこと、それから話すこと、書くことがあって、次にまた文章が出てきて、聞くこと、話すこと、書くことがあって、まとまった文章の読み取りに基づく課題というのが示されています。取り上げられている題材も、小林委員からもありましたけれども、興味深い題材が多いということで、三省堂も取り組みやすいのではないかと思います。

以上です。

教育長 では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 いわゆる会話であるとか物語であるというのが教科書に取り上げられているのですが、例えば話すことに関して、AさんとBさんの会話が教科書にあって、それを覚えてというのは別に話すことにつながるわけではないので、話すことを学ばせるのであれば、材料があって、絵でも写真でも、キーワードがついてでいいのかなと思いますので、やっぱり読ませるものがしっかりある教科書がいいかなと。もちろんいずれの教科書もあるのですが、そんなことを思いながらそれぞれの教科書を拝見させていただいて、私の中では最終的には東京書籍と三省堂でした。

教育長 それでは最後に高梨、私から推薦する発行者を申し上げさせていただきます。

初めは英語については、皆さん御指摘されていらしたように、聞く、読む、書く、話すの4技能の習得がバランスよく学べるようになっていくかどうか、あるいはまたどうしても学年が進行するにつれて英語嫌いの生徒と、英語をもっと学びたいという生徒の双方の希望をかなえられる構成となっているかどうか。さらには学んだことを日常生活、ふだんの町中等で生かせる工夫がされているかどうか、そういった視点で比較をしてみました。

各者とも様々な工夫を凝らして特色ある教科書内容になっておりまして、小林先生の御発言ではないですけど、1者に絞るのが大変困難でありました。ましてQRコード、デジタルコンテンツの評価についてはかなり迷った次第です。

結論としては、私は東京書籍、三省堂、教育出版の3者のいずれかがいいのではないかと
思った次第です。

東京書籍については、Unitごとにゴールとキーポイントが書かれておりまして、それ
ぞれの単元で何を学ぶかが明確になっていること。補助教材も充実しており、生徒たちがす
ぐに役立てられる内容が盛り込まれている。ただ、御指摘にありましたように、サイズが大
きくて若干使い勝手がどうなのかなというところがありました。

三省堂については、割方シンプルで、ワード、本文、ポイント、リッスン、ドリルと課題
の構成が簡潔で分かりやすく、文法のまとめも分かりやすい表現になっておりまして。それ
ぞれのLessonのパートごとに学習目標とキーセンテンスが示されており、巻末の資料
も充実していると考えた次第です。

また、教育出版は、それぞれのLessonの終わりに、Review、Task、Gr
ammar、振り返りが掲載されておりまして、学習目標の到達度が生徒一人一人自分で確
認できる内容になっております。

加えて、Further Readingですとか、巻末資料などの応用教材も充実して
おり、3者のどれかがいいのではないかなと思った次第です。

それでは、一通り御発言を頂いたところで、各発行者名を挙げますので、最もふさわしい
と思われる発行者について、挙手をしていただければと思います。

まず初めに、東京書籍がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 2名ですね。

開隆堂がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 三省堂がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 三省堂が3名ということですので、三省堂を採択することと決定いたします。

続きまして、「特別の教科 道徳」、種目「道徳」について、事務局から説明をお願いしま
す。

指導室長 「新しい道徳」、東京書籍でございます。内容につきましては、内容構成のバラ
ンスが良く、重点項目がユニット化されております。学習活動につきましては、役割演技を通
じた体験的学習ができるものとなっております。

「中学道徳 とびだそう未来へ」、教育出版でございます。内容につきましては、発展・
補充の内容がバランス良く配分されております。学習活動につきましては、問題解決的な学

習を促す教材がございます。

「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」、光村図書出版でございます。内容につきましては、見通しと振り返りの補助教材が充実しております。学習活動につきましては、言語活動を促すための問題解決学習のための発問がございます。

「中学道徳 あすを生きる道徳ノート」、日本文教出版でございます。内容につきましては、3年間を見通した系統的、発展的な学習への工夫がされております。学習活動につきましては、問題解決的な学習を進める題材を取り扱い、言語活動を促してございます。

「中学生の道徳 明日への扉」、学研教育みらいでございます。内容につきましては、大事なテーマはユニット化されており、多面的、多角的に学べるようになっております。学習活動につきましては、問題解決学習用のワークシートがあり、問題解決的な学習や言語活動を促しております。

「中学生の道徳」、廣済堂あかつきでございます。内容につきましては、別冊のノートがあり、記録を残す工夫がございます。学習活動につきましては、問題解決的な学習を進められるよう工夫されてございます。

「道徳 中学」、日本教科書でございます。内容につきましては、カリキュラムマネジメントを考慮し、1年間を振り返るワークシートを附属しております。学習活動につきましては、問題解決学習のための発問がございます。

以上でございます。

教育長 それでは、「道徳」につきまして御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 道徳ですが、選定に当たっての留意点ということで、1点目としては考える道徳を留意させていただきました。正解があって、そこにたどり着くための話し合いではなく、むしろいろいろな意見を出し合いながら、違った意見・立場があることを理解し、その上でお互いどのように尊重し合いながら生きていけばいいのかを考えるとあってほしいと思いました。2点目としては、分量ということです。その検討を踏まえまして、東京書籍か日本文教出版がいいのではないかと考えました。

まず東京書籍ですが、教材の長さが適切であり、教材はあくまでも導入的な位置づけとなっております。作品を通じて自分のことを振りかえるということが重視されている点です。

2点目として、東京書籍ですが、作品の後ろの問い、中心発問ですが、これが簡潔であるということです。その点では議論する時間が確保できるのではないかと考えました。

日本文教出版さんですが、1点目としては、作品の後ろの中心発問が簡潔です。

2点目としては、参考資料が非常に充実しております。

3点目としては、実際にやってみる、体験するという点でも優れていると思いました。

4点目ですが、ノートがあるのはいいのですが、少し作業量が増えてしまうのではないかと、そのような気もいたしました。

総合的に2者を比べますと、現行の東京書籍がいいと考えました。

以上です。

教育長 それでは、坂田委員、お願いします。

坂田委員 私も基本的には設問がシンプルで、子どもたちが自由に考えられるような、そういったつくりの教科書が良いのではないかと思います。

その意味で、いいなと思ったのはやはり東京書籍ですけども、そういう設問が押しつけ的ではなくて、自由に考えられる。例えば1年生の22ページですが、いじめに当たるのはどれだ、それぐらいの設問からスタートすると、そういったつくりになっていまして、その辺が感覚にマッチしていると思いました。

また、題材に非常に身近なものが多くて、子どもたちが自由に考えるということを見ると、題材が身近なものの方がやはり議論がしやすいと、それから先生方も教えやすいのではないかと考えました。

日本文教出版も、いいのはそれぞれの題材が割とコンパクトにできていて、内容の質も非常に高いと思います。道徳も時間は限られていますので、先生方がその中から題材を選んで議論するというのであれば、日本文教出版さんも非常にいいものではないかなと思いました。

あと題材としては、やはり光村図書は、国語的な道徳の教科書だと思いますけれども、題材は非常に優れたものがあると思います。

今のようなことを考えまして、一応最もいいのかなというのは、東京書籍と考えました。

教育長 では、長島委員、お願いします。

長島委員 全体として取り上げられている題材といいますが、作品がどうも出典が編集委員会となっているものにはやっぱりちょっと違和感を感じるというのが正直なところです。読み進めていくと、これは編集委員会だなと思ってしまって、見るとやっぱりそのとおりだと。教材としてよく考えられているといえば考えられているとも言えるかと思いますが、ややちょっと違和感を感じるというのが正直なところです。

それで私は坂田委員ともかぶりますが、設問がどうなっているかということと、あと巻末の振り返りのところですね。学期末の振り返りだったり、1年間の振り返りだったりするのですが、それがあまりいろいろなことをチェックするようになっていたり、書き込むことが多くなっていたりしないほうがいいのではないかといいことで見ました。そうすると別冊でノー

トがついているのは、ちょっとという感じにもなってしまおうのですが、そういったことから見て、東京書籍、あるいは光村図書、あとノートがついているところでは日本文教出版あたりかなと思っています。

以上です。

教育長 それでは、繁田委員、お願いします。

繁田委員 私も別冊のノートに関しては、多分先生方のやり方によっていろいろだと思われるので、特についているからいいとは考えませんでした。もう中学生なので、自分のノートでもいいのかと思いました。

視点としては、題材から生徒が気付きを得られるようなものなのか、あるいは自分の成長につながるようなものなのかというところで、既に御意見がありましたけれども、身近な題材がよりいいのか、歴史的な題材がいいのかというのはちょっと悩ましいところで、やっぱり知ってほしい歴史的な出来事というのも痛みを伴ったものだと思うのですけれども、あってもいいのかというところで、僕の中では迷っているところです。

最終的に決めましたのは、私の中でやっぱり印象に残ったのは日本文教出版と東京書籍と光村図書出版と教育出版だったのですが、差別とか偏見を正面から取り上げているという視点で、東京書籍と教育出版が残りました。

教育長 ありがとうございます。

私は、道徳の4領域として、自分自身に関すること、人との関わり、社会との関わり、自然や崇高なものとの関わりという4領域のバランスがとれているか、あるいはまた不登校や自殺、いじめにつながるように自分を大切にすること、そしてまた自分と同じように他人を大切にすること、多様性を認める、そういった学びにつながるようになっているのか、そういった点を重点的に比較検討してみました。

題材としては、やはり光村図書出版がいじめですとか、自己肯定感、他者への思いやりなどを取り上げたテーマを多く掲げております。童話もあり、小学校の教材をもう1回改めて考えさせる、そしてまた歌謡曲の歌詞について考えさせる内容等多岐にわたっております。3年生の教科書では荒川九中夜間で学んだ生徒の作文が紹介されておまして、そういった点で子どもたちはとても身近に感じられるのかなと思いました。若干伝統的な題材が多いかなという気もします。

一方、日本文教出版も、先ほど来先生方に御指摘いただいているように、多岐なテーマを簡潔にまとめて学習しやすい、そういった紙面構成になっております。またプラットフォームというコーナーでは、学習内容をより広げて話し合い活動にも活用できるのではないかと思います。別冊の道徳ノートについては良しあしがあると思われまして、書くことばかりになっ

てしまっただうかなという感じもいたしました。

以上、道徳について先生方の御意見をお聞きしました。これもいろいろな御意見がございますので、順に最もふさわしいと思われる教科書について、挙手をお願いします。

まず初めに、東京書籍の教科書が最もよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 もう3名ですね。

それでは、「道徳」につきましては、東京書籍に決定いたします。

以上、決定とさせていただきます。採択結果は以上でございますけれども、予定しておりました10教科16種目の採択が終了いたしましたので、改めて、では事務局から確認をお願いします。

指導室長 それでは、結果について読み上げをさせていただきます。

教科「国語」、種目「国語」、三省堂でございます。

教科「国語」、種目「書写」、三省堂でございます。

教科「社会」、種目「地理的分野」、帝国書院でございます。

教科「社会」、種目「歴史的分野」、東京書籍でございます。

教科「社会」、種目「公民的分野」、東京書籍でございます。

教科「社会」、種目「地図」、帝国書院でございます。

教科「数学」、種目「数学」、啓林館でございます。

教科「理科」、種目「理科」、啓林館でございます。

教科「音楽」、種目「一般」、教育芸術社でございます。

教科「音楽」、種目「器楽合奏」、教育芸術社でございます。

教科「美術」、種目「美術」、日本文教出版でございます。

教科「保健体育」、種目「保健体育」、大日本図書でございます。

教科「技術家庭」、種目「技術分野」、東京書籍でございます。

教科「技術家庭」、種目「家庭分野」、東京書籍でございます。

教科「外国語」、種目「英語」、三省堂でございます。

教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」、東京書籍でございます。

以上でございます。

教育長 採択結果は以上のとおりとなりました。採択結果につきましては、本委員会の終了後に公開いたしますので、よろしくお願ひいたします。

以上で、議案第25号「令和3年度から使用する中学校教科用図書の採択について」の審議は終了いたしました。

続きまして、議案第26号「令和3年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題といたします。事務局より議案の説明があります。

指導室長 それでは、議案第26号「令和3年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」、御説明いたします。

提案理由でございます。令和3年度に荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書を採択するものでございます。

内容でございます。令和3年度に荒川区小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書として、各学校が教科種目ごとに児童・生徒の実態に応じた教科用図書を調査研究し、その結果を受けて教育委員会において採択いたします。別紙にて選定、採択いただきたい図書の教科、種目ごとの一覧をまとめました。小学校は64冊、中学校は30冊となります。

令和3年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択については、小・中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編成する場合は、学校教育法附則第9条、同法施行規則第139条の規定によって、教科により当該学年用の文部科学省検定済みの教科用図書を使用することが適当でないときには、当該校の設置者の定めるところにより、ほかの適切な教科用図書を使用することができるということになってございます。

特別支援学級で使用する教科用図書は、いわゆる一般図書と呼ばれております。本区におきましては、東京都教育委員会が作成しております資料を参考に、各学校が使用する一般図書を調査研究することになっております。今回は令和3年度使用特別支援教科書調査研究資料及び令和3年度用一般図書一覧等から各学校が調査研究をいたしました。本区で使用する一般図書につきましても、都立特別支援学校で使用する図書と同じものを使用することにより、各特別支援学級の児童・生徒の状況に応じた適切な図書を選択することができると思います。

本日は令和3年度荒川区立小学校及び中学校特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめを御報告いたします。御審議をよろしくお願いいたします。

教育長 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、私から改めて確認です。この一般図書については、主に特別支援学級の担任の先生方が、長年の経験を通して子どもたちに教科書以外で教えるのに最もふさわしいと思われる図書についてピックアップして、あとは実際に各学校でこの一般図書を参考にして子どもたちの教育に資するという形になるのですよね。

指導室長 はい、さようでございます。

教育長 ほかに御意見等ございませんでしょうか。

それでは、原案どおり採択することに御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。

議案第26号「令和3年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」は、原案のとおり採択することに決定いたしました。

その他の報告事項ですが、8月から10月までの教育関係、教育委員会関係行事につきましては、配付資料のとおりです。これに関してはよろしいでしょうか。

本日予定しておりました案件は以上でございます。事務局からその他の事項として何かありますでしょうか。

教育総務課長 日程の確認でございます。本日は御審議ありがとうございました。次回の定例会につきましては、8月28日の金曜日に定例会を予定してございます。

また、9月11日、9月25日の定例会につきましては、9月会議が同日に行われますので、開始時刻は15時30分からになっているところでございます。

また、ちなみに本日は1学期の終業式で、明日から児童が2週間の夏季休暇に入りまして、8月24日に2学期の始業式を迎えることとなります。

以上でございます。

教育長 以上をもちまして、教育委員会第15回定例会を閉会いたします。

本日は長時間にわたりありがとうございました。

了